
バカと墮天使と召喚獣

閃光の伯爵

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカと墮天使と召喚獣

【Nコード】

N4729V

【作者名】

閃光の伯爵

【あらすじ】

元兵士の緋色？由比^{ヒヨロコイ}が学生として文月学園の生徒と過ごす物語。現在、強化合宿編です。見てくれるとありがたいです。

予習問題（始まりの序曲）（前書き）

有り得ない話ですがよろしくお願いします。

予習問題（始まりの序曲）

予習問題

第0話 始まりの序曲

アナザーセンチャリー

AC暦百九十七年、バートンの反乱の後の春。

俺の名は、緋色・由比。（ヒロ・ユイ）

あくまで学生として過ごしている元ガンダムのパイロット。

しかし、戦った仲間達は、バートンの反乱後みなそれぞれの人生に戻った。戦争も終わり平和となったため、学生として過ごしている。

そして通っているのは、文月学園。偶然と科学とオカルトによりできた新たなシステムの試験校である。そして、緋色の学生生活二年目の春から

新たな物語が今、紡がれる。

予習問題（始まりの序曲）（後書き）

更新ペースは決まっています。文才もありませんがよろしく願います。

キャラクター紹介（前書き）

キャラクター紹介です。

キャラクター紹介

ヒロユイ
緋色由比

学力 Aクラス

性別 男

身長 原作より少し大きい。

体重 あまり変化なし。

クラス Fクラス。

理由 試験中に眠ってしまいFクラスになってしまう。

召喚獣 ウイングガンダム（ビームサーベル装備）に召喚獣を組み合わせたかんじ。

腕輪 バスターライフル召喚と使用。

バスターライフル召喚に20点消費する。バスターライフル使用に30点消費する。

威力は100ダメージ（最低）

リリーナとの関係

ovaの新機動戦記ガンダムW EWのファイナルシューティングより会っていない。
エンドレスワルツ

デュオなどとはたまに連絡しあっている。（雑談メイン）。
ウイングゼロは破壊した。

キャラクター紹介（後書き）

最初からウイングゼロはチートっぽいと思ったのでウイングにしてみました。十分チートっぽいですが。

二学期になったらウイングゼロを降臨させようとおもいます。

第一話（第一問）始まりの流星（前書き）

どうも第一話の投稿です。

第一話（第一問）始まりの流星

朝 校門前

「おはようございます」

「お前は誰だ？」

「転入生の緋色由比です。」

「お前が試験中居眠りしていた生徒か。この学園について説明を職員室でするからついてこい。」

「任務了解。」

移動中 しばらくお待ちください。

朝 職員室

「当学園は〜〜（以下略）」

はなすこと二十分？

「ということだ。理解できたか、緋色？」

「はい、だいたいは。」

「ならば、自分の教室に向かえ。もうすぐHRがはじまるぞ。」

「了解しました。任務を遂行します。」

「ところで、その話し方はなんだ。」

「昔からの癖でなかなかぬけないんです。」

「わかった。急げ遅刻になるぞ。」

「先生はどちらに？」

「遅刻している観察処分者（学園の恥または、バカ代表）にこれをわたさないといけない。」

といって封筒をピラピラと振る。

さて任務を開始する。目標二―F。緋色由比任務を遂行する

第一話（第一問） 始まりの流星（後書き）

早速^{ヒイロ}緋色が崩壊してしまいました。

次回 僕と翼と召喚獣

卓袱台と自己紹介と仲間達。

第二話（第二問）卓袱台と自己紹介と愉快的仲間達（前書き）

第二話かいてみました。
自己紹介編です。

第二話（第二問）卓袱台と自己紹介と愉快的仲間達。

二―F前

外から見て、途轍もなくぼろすぎる。このような所で授業か。とりあえず先生がくるのを待つか。

十分後

「君は？」

「転入生の緋色由比です。」

「とりあえず呼ぶまで待つていてください。」

数分後

教室内

「このクラスに転入生がきます。」

「先生、もちろん女子ですよね？」

「男子です。」

「くそー。せつかく俺達に春がきたとおもったのに。」デュオの相手よりも絶対大変だな。

「入ってきてください。」

教室に入ると、

男子46女子2不明1という圧倒的に男子がおおかった。

設備は、古い卓袱台、古い座布団、カビ、キノコの生えた畳だった。第一感想は、学園長がどんな人かみてみたくなった。

「卓袱台と座布団は支給されてますか？不備があつたら申し出てく
ださい。」

「すみませーん遅れちゃいました。」

「早く座れウジ虫野郎」

「状況を考えろ」

「僕の扱い酷くない？」

「酷くない。」

「さっきから誰だ！僕を罵倒するのは。一人は雄二として、後一人

はだれだ。」

「状況をよめとっている。」

「はい。」

第二話（第二問）卓袱台と自己紹介と愉快的仲間達（後書き）

とても長くなってしまいました。自己紹介に届かなかったです。

第三話（第三問）バカと（真）自己紹介。（前書き）

前回以外にもとどかなかつです。今度こそ自己紹介です。

第三話（第三問）バカと（真）自己紹介。

「では、廊下側の人からおねがいします。」

「ワシは、演劇部所属の木下秀吉じゃ、一年間宜しくたのむぞ。ちなみに性別は男じゃ。」

彼は、男か。近くの（たぶん観察処分者）「バカ+問題児だろう。」

「…土屋康太」

口数が少ないな。俺がいつていいのかは別にして。

何人が自己紹介中。しばらくお待ちください。

次は俺か。

「俺の名は、緋色由比一年間宜しく頼む。」

ふつうに終わらせ、席に戻る。

二三人自己紹介（省略）

「次は、僕だね。」

「僕の名前は吉井明久気軽にダーリンって呼んでね」

「……ダー……………リン」「……」

明久の顔が…

「すみません、忘れてください。」

吉井明久か。あとで話をきいてみるか。

「……で読み書きが苦手です。趣味は、吉井明久を反殺しにすることです。」

「はろはろー吉井」

「あう島田さんか。」

あの二人、おかしい。

仲間なのだろうか。

数人自己紹介

その後

第三話（第三問）バカと（真）自己紹介。（後書き）

また終わりませんでした。すみません。

第四話（第四問）バカと（本当の）自己紹介と懐かしい人。（前書き）

今ごろ気づきましたが、タイトル間違っていました。

それはともかく、自己紹介第三話。試召戦争は次からの予定です。

第四話（第四問）バカと（本当の）自己紹介と懐かしい人。

「遅れてすみませーん。」

「自己紹介をお願いします。」

「俺の名は、デユオ・マックスウェル。逃げや隠れたりするが、嘘は言わないぜ。一年間よろしくー。」

デユオだと。何も聞いてなかったが。

「とりあえず空いてる席に座ってください。」

「はいはいと。」

「デユオ何故お前が此処にいる？」

「いやー、それがさお前が学生やってると聞いてさ。俺も満喫してみよっかなーという訳。」

「お前らしいな。」

「静かにしてください。」

「すみません。」

先生が教卓を叩く。そしたら教卓が散っていった。

「代わりをもってくるので、自習をするように。」

「オイ、ヒイロ」

「違う、今の俺は緋色由比だ。」

「って読み方一緒じゃねーか。」

「二人、出ていったぞ。」

数分後

自己紹介中

「俺は、坂本雄二。好きに呼んでくれ。皆設備に不満はないか？」

「……大ありじゃー……」

「おいおい、すごいノリだな、緋色。」

「お前以上だ。」

「代表として提案するクラスに戦争を仕掛けようと思う。」

第四話（第四問）バカと（本当の）自己紹介と懐かしい人。（後書き）

みなさんこんにちは、もしくはこんばんわ。ヒロユイ役の緑川光
じゃなくて作者の閃光の伯爵です。

ほとんどの人が姫路をだすとおもったでしょう。姫路ファンの皆様
すみません。

なんか長くなってしまいました。そういえば、ヒロインについてか
んがえてません。できれば意見をください。

第五話（第五問）バカと仲間と試召戦争。（前書き）

まさかのデュオ登場紹介は次にしたいとおもいます。

第五話（第五問）バカと仲間と試召戦争。

「俺達はAクラスに試召戦争をしかける事を提案する。」

「試召戦争だつて」

「無理に決まっている。」

「姫路さんがいたらなにもいらない。」

「おい、関係無いこというな。」

（このクラス異常すぎないか緋色。）

「根拠ならあるさ。今からそれを教えてやる。」

「例えば、康太、いつまで姫路のスカートを覗いている」

「…別に覗いてなんかいない。」

「ムツツリー二だと。」

「奴は、本当に実在してたのか。」

（（いったいどんなやつなんだよ。））

「明久、姫路と、緋色とデュオが頭に？をつかべてるぞ。」

「説明しよう。ムツツリー二とは男子には畏怖と畏敬を、女子には軽蔑されてるムツツリスケベの帝王なんだよ。」

「…ようするに犯罪者だな。」

「ブンブン。」

「ムツツリー二についてはいいな。そして、姫路がいる。ウチの主戦力だ。」

「それに、緋色と、デュオがいる。こいつらは、ガンダムのパイロットだった男だ。」

「…なんでお前が知っている。（いるんだよ！）」

「俺の知り合いにいたんだよ。お前等にあつた奴が。」

「…まさか、ハワードか？」

「ああ。」

「これはおいといて、そしてそこにいる吉井明久だ。」

「え？僕。」

第五話（第五問）バカと仲間と試召戦争。（後書き）

また長くなってしまいました。次は宣戦布告までいこうとおもいます。

第六話（第六問）バカと学園の恥と宣戦布告。（前書き）

和泉の信田さん感想ありがとうございます。話のペース遅くてすみません。

第六話（第六問）バカと学園の恥と宣戦布告

「コイツの肩書きは観察処分者だ。」

「（おい、）それってすごいんですか。（すごいのか。）」「

「そうか三人は、知らないもんな。」

「いいや、理解している。」

「ほう。さすがだな。」

「観察処分者とは、簡単にいえば、教師の雑用、学園の恥、バカの中のバカにしか手に入らない肩書きだ。」

「違うよ、ちよっとお茶目な十六歳の…」

「「違う、バカの代名詞だ。」」

「お前とは仲良くできそうだな。」

「お前もな。」

「まず、最初にクラスを叩く。明久お前はクラス大使として宣戦布告してこい。」

「下位勢力の使者で大変なことになるよね？」

「それは、二年前までだ。」

「騙されたと思って逝ってこい。」

「行かなかったら、デユオあれを明久につかえ。」

「りょーかい。腕がなるぜ。」

「わかったよ。いつてくるよ。」

数分後

「だまされたー」

「「「やっぱりな。」」」

「お前らを殺す。」

「懐かしいな、緋色。お前の名台詞のひとつだ。」

ばっ（明久が襲う音）

ドンッ（緋色が地面に押さえ込む音）

ブスッ（ビームサイスの柄で軽く刺す音）

「ぎいやあああ」（明久の悲鳴。）
「お前、バカか？」

第六話（第六問）バカと学園の恥と宣戦布告。（後書き）

明久大変ですね。（笑）デュオのビームサイズについては、次で紹介します。

キャラクター紹介2（前書き）

今回はデュオ、ヒルデ、ゼクスの紹介です。

キャラクター紹介2

紹介2

デュオ・マックスウェル

身長 原作より少し大きい

体重 あまり変化していない

目・髪 原作と同じ

性格 変化なし

顔 ほぼ同じ

召喚獣 ガンダムデスサイズみたいなもの

武器 ビームサイズ

バスターシールド

一発10点消費

腕輪 ハイパージャマー（透明化）一秒一点消費
ヒルデとは恋人関係で同棲している。

また、携帯用ビームサイズを常に持っている。

ヒルデ・シュバイカー

身長 少し伸びた。

体重 デュオ以外に公開できません

目・髪 変化なし

性格 変化なし

顔 少し大人っぽく

召喚獣 トーラスみたいな感じ

武器 ビームライフル

腕輪 ビームカノン

召喚・使用20点消費

クラス

デュオとは恋人関係。

デュオについてきたことにより転入。

ゼクス・マーキス

二年世界史教師

身長・体重 あまり変わってない

目 青

髪色 金髪

髪型 先を結んでいる。

顔 変わっていない。

召喚獣 エピオンみたいな召喚獣。

武装 ビームソード

ヒートロッド

腕輪 武装大型化

10秒5点消費

ノインとは結婚した。

リリーナとはしばらくあっていない。

キャラクター紹介2（後書き）

ゼクス登場。カトルとトロワはだすかわかりません。随分前に出したアンケートは試召戦争までとします。

第七話（第七問） 昼食と科学物質（前書き）

土曜日は用事があってこうしんできません。すみません

第七話（第七問）昼食と科学物質

4時限目終了後

「デュオ、お前は、昼はどうするのか？」

「ヒルデが持ってきてくれるはず。」

「デュオー」

「よお、ヒルデ」

「ほら、弁当」

「いつも、ありがとな。」

「デュオ、ヒルデ屋上に逃げるぞ」

「「「「「「「」」」」」」」」

「これより異端審問会の準備をはじめる。同士達よ、デュオ・マックスウエルをとらえるぞ。」

「「「「「「「」」」」」」」」

「緋色にデュオ一緒に昼たべないか？」

「先に屋上にいっててくれ。」

屋上

緋色 side

これはいったいなにがおきている。

「ねえ、デュオ。その女子誰？」

「私はヒルデ・シュバイカーよろしくね。」

「僕は吉井明久、よろしく。ところで、デュオなにしてるの？」

デュオ side

「おらおらー、俺をみた奴は皆臨死体験するぜー」

「いいながら、ビームサイズで「斬って斬って斬りまくるう！」」

「デュオ、学生らしくしてよ。」

「悪い悪い、つい、昔の癖で。」

「何で人が倒れてんだ？」

（姫路さんの手料理のせいだよ）

アイコンタクトができるとはなかなかいい学校かもな。

第七話（第七問） 昼食と科学物質（後書き）

さて、この後の犠牲者はだれでしょうか。
次回臨死体験と作戦会議と補給テスト

第八話（第八問） 昼食と作戦会議と臨死体験（前書き）

できればWからもつと出そうと思います。

第八話（第八問） 昼食と作戦会議と臨死体験

第八話

緋色 side

「皆さん何をしているんですか？」 布施先生登場

「昼食中です。」

「少し貰っていいですか？」

「僕たちは腹いっぱいなのでぜんぶいいですよ。」

ポケットからタッパーとは常識はずれのきょうしだな。

「あの、先生。容器ごと持っていいですよ。」

「では放課後までにはかえします。」

「明久、戦争はいつからか？」

「午後からだよ。」

「姫路、緋色、デュオは補充試験を受け、姫路は突撃。二人はかえってこい。」

「わかりました。」

「任務了解。任務を遂行する。」

「りょーかいっ」と

「秀吉、ムツツリー二、島田は前線でつつこめ。」

「承知。」

「…わかった。」

「わかったわ」

「明久、お前は俺の護衛だ。」

「俺達のクラスは最強だ。」

Fクラス対Dクラス 戦争開始

「俺達は補給試験をうけるぞ。」

第八話（第八問） 昼食と作戦会議と臨死体験（後書き）

試召戦争はじまりました。

もしかしたら、次でクラス戦終わるかもしれません。

第9話（第9問）戦争と作戦と流星（前書き）

試召戦争編スタート

第9話（第9問）戦争と作戦と流星

第9話（第9問）戦争と作戦と流星

「先生、補充試験を受けます！」

「分かった。このテストの点数が召喚獣の点数になるがよろしいか？」

「おい、ゼクス何故お前が此処にいる？」

「私はゼクス・マークス。世界史の教師だ！」

「お前が教師だったとは想像がつかないだろ！」

「この事は後にしてテストを受ける。」

「はい。」

「了解、任務を遂行する。」

「りょーかいつと。」

「では、始め！」

補充試験終了後

「それでは、がんばってこい！」

「おいデュオ、（緋色）ゼクスが人を応援しているぞ。」

Fクラス

「よく帰ってきたな二人とも」

「俺たちは何をすればいいのか？」

「そろそろ決着が着くはず」

「戦争終了！勝者Fクラス！」

「よっしゃああああ」

Fクラスの勝利で終わった。

第9話（第9問）戦争と作戦と流星（後書き）

ゼクス登場。ほかにも出そうと思います

第十話（第十問）卑怯と変態と勝者の放課後（前書き）

十話連載達成。これからもよろしく願います。

第十話（第十問）卑怯と変態と勝者の放課後

第十話卑怯と変態と勝者の放課後

「それじゃ、戦後対談の開始だ。」

「設備交換は明日でいいか？今日は遅いから。」

「いいや、交換はしなくていい。代わりに条件がある。Bクラスのエアコンの室外機をこわしてくれ。」

「ちよつとまつ……」

「デュオ、明久をだまらせろ。」

「すみませんでした。」

それを無視して対談のほうを見る。終わったようだ。

緋色 side

「解散！明日にそなえとけよ。」

「ねえ、緋色、デュオ？一緒に帰らない？」

「「そうしたいが、ゼクスによばれている。」」

「ゼクス？」

「世界史の教師だ。」

「あのゼクス先生に？」

「ああ。あのつてどれだ。」

「とても厳しいイケメンの先生だよ。」

「「じゃあな。また明日」」

「デュオ、いくぞ。」

「ああ」

「ゼクス先生いますか？」

「来い」

「失礼します」×2

「用事とはなんだ。ゼクス。」

「リリーナが事故にあった。下手したら冷凍睡眠行きだ。」

「なんだって」×2

第十話（第十問）卑怯と変態と勝者の放課後（後書き）

リリーナ登場？ヒロインはリリーナではありません。バカテストについてアンケートをとろうとおもいます。

第十一話（第十一問）リリーナと病院とガンダムのパイロット（前書き）

リリーナにいったい何が？答えは次から

第十一話（第十一問）リリーナと病院とガンダムのパイロット

第11話

緋色 side

「リリーナが事故に？」

「ああ。私にはまだやるべきことがある。だからリリーナを頼むぞ。」

「

了解。任務を遂行する。急ぐぞデュオ！」

「へいへい、ぞっこんってやつね。」

「廊下は走るなよ。」

俺は廊下を走り抜ける。デュオは着いてこれてないみたいだ。

次の瞬間

誰かとぶつかった。

「痛いじゃない。ちゃんと前みて歩きなさいよ！」

「すまない。立てるか？」

「ありがと。」

そのときデュオがきた

「おいおい、緋色！リリーナお嬢様が大変じゃないのかよ？」

「お前、名前は？」

「木下優子よ。」

「すまなかった、優子。」

「置いてくぞ緋色。それとも二人っきりで過ごしててもいいぞ。」

「待ってる、すぐに追いつく。」

俺はまた走り出した

病院のとある一室

リリーナ side

バンという大きなドアの開く音で目を覚ました。

そこには、ヒイロとデュオがいた。

「ヒイロ！」

「大丈夫かリリーナ？」

「あなたは今何をしているの？」

「文月学園の生徒としてこいつといつしよにずっといる。」

「あなたが学生？信じられない。」

「ノインとゼクスに聞けばわかる。」

第十一話（第十一問）リリーナと病院とガンダムのパイロット（後書き）

木下優子登場。ノインは物理の教師として出す予定です。この後どうなるかお楽しみに。

第十二話（第十二問）ヒロインと墮天使と死神（前書き）

ノインなどについてはのちほど

第十二話（第十二問）ヒロインと墮天使と死神

第12話

「おいおい、緋色なんでノイン隊長なんだ？」

「それは、ノインも文月学園の物理の教師だからだ。」

「ゼクスがいたからもしやと思って調べたら、当たった。」

「ところで緋色、そろそろ帰らないとやばくないか？」

「悪いがリリーナ俺たちは帰らせてもらう。」

「さようなら、緋色」

「さようなら、リリーナ」

「二年前と同じ台詞つかうなよ。」

「急ぐぞ、デュオ」

「へいへい。」

帰り道

「おい緋色」

「なんだデュオ」

「あれって放課後ぶつかった娘じゃないのか？」

「優子だったか？それがどうした？」

「少し待ってる。片づけてくる。」

「待てよ、俺も手伝うぜ！」

「ねえ、お兄さん達と一緒にエメラルドの都までランデブーしないかい？」

「何時の時代の人間だ？お前等は？」

「おら、おらー死神と墮天使様の御通りだー」

「何者だ！」

「お前等を殺す。デュオ、俺にも一本貸してくれ。」

「ほらよ。お前にやるぜ。」

「ありがとなデュオ。お前が相手してくれないか？」

「いいが、お前は？」

「優子を守る。片づいたら帰っていいぞ。ヒルでが心配してるだろうから。」

緋色 side

「優子、大丈夫か？」

第十二話（第十二問）ヒロインと墮天使と死神（後書き）

不良と遭遇。なかなかBクラス戦いけません。

第14話（第14問）ヒロインと墮天使と帰り道（前書き）

緋色は優子ルートで行こうとおもいます。

第14話（第14問）ヒロインと墮天使と帰り道

第14問

緋色 side

「優子、だいじょうか？」

「足を少し痛めただけ。」

「立てるか？」

「うん」

「嘘つくな。けが人は別に我慢などしなくていい。」

「いや、大丈夫だから。」

「俺に気をつかわなくていい。乗れ」

「悪いわね。なら、おねがいね。」

「了解した。」

帰り道

「昔の貴方ってどんな人だったの？」

「昔は気づいたら、アディン・ロウという奴と一緒に人を殺しながら仕事していた。どうした？目が点になってるぞ？」

「過去がすごいなーと思って」

「オペレーションメテオと言う出来事をしってるか？あのガンダムにのっていたのは、俺とさっきの奴デュオだ。」

「大変だったみたいね。」

「今度はお前が話す番だ。」

「女子の秘密を詮索したらいけないってならわなかった？」

「俺は、テロリストとして育てられた。だから知らない」

「家についたみたいね。」

第14話（第14問）ヒロインと墮天使と帰り道（後書き）

ところでデュオの活躍は省略されましたね。

第15話（第15問）ヒロと優子と木下家（前書き）

13話忘れてました。すみません。

第15話（第15問）ヒロと優子と木下家

第15問

緋色 side

インターホンを鳴らす。

ガチャッと扉の音になる。

「どちら様でしょうか。」

「自分は二年クラスの緋色由比と言います。それはともかく、優子さんが足を怪我してるので治療をお願いできますか？」

「ごめんなさい。道具はあるけど、使い方分からなくて。」

応急処置ができない大人は初めてみたな。

「先に優子の部屋にいつててくれない？」

「それは、さすがに優子さんにご迷惑が掛かるとは思いますが」

「別にいいわよね？優子？」

「え…ええ。」

「お邪魔します。」

「お邪魔なんて、むしろ大歓迎よ。はい、救急箱。」

「ありがとうございます。優子、もう少しの辛抱だ。」

「う…うん」

「どうした？顔が赤いぞ？」

「そ…それは」

「聞かないでおくとするか」

よく考えたら女子とあまり交流はなかったな。これが時代の変化か。こんな事を考えながら部屋に入った。

第15話（第15問）ヒロと優子と木下家（後書き）

優子の部屋に入った緋色。この後がどうなるか、お楽しみに。

第16話（第16問）ヒロと優子と腐女子（前書き）

15話連載記念。なにもするきはないですが。そういう事でほしいことがあったら送ってきてください。感想もお待ちしております。

第16話（第16問）ヒロと優子と腐女子

第16話

緋色 side

ボーイズラブ

部屋ひ入ったら、BLの本や、脱ぎ捨てられたジャージがあった。

「ほう、女子はBLが好きなのか。」

「みんなは知らないけど。私は面白いとおもうわ。」

「みんなにばらして…」

「やめて、それだけは」（涙目＋上目遣い）

「もともとばらしたりしないが、今のが可愛かったからいいか。」

「緋色、緋色にとって私は可愛い？」

「ああ、もちろん。昔のあの子に似てて少し罪悪感があるが。」

「昔のあの子？」

「ああ。おれのせいで死んだ少女だ。」

「私とどこかにてるの？」

「純粹で可愛い笑顔が。」

「緋色、私と付き合ってください。」

「お前が いいのならいいが。キスでもするか、証として。」

「といって唇を重ねる。」

ガチャッと音がなり

「二人ともお茶いる？ごめんね！。邪魔して。せつかくだから泊ま
つていったら？着替えを持ってるんでしょ？」

「はい。なら、お言葉に甘えさせていただきます。」

第16話（第16問）ヒロと優子と腐女子（後書き）

すみません。無茶苦茶でした。次は朝の話ですね。

第17話（第17問）木下家の夜と添い寝と暴走（前書き）

最近緋色がバカみたいに崩壊してる気がします。

第17話（第17問）木下家の夜と添い寝と暴走

第17問

「ところで、何処で寝るの？やっぱり、優子の部屋？」

「別にどこでもいいです。そんなワガママを言う権利はありませんので。」

「なら、優子と同じベッドで寝たら？いいでしょ、優子？」

「緋色がいいっていうなら」

「俺は大歓迎だ。」

「なら、おやすみなさい。」

「朝ご飯は俺が作らせてください。泊まらせてくれるお礼をしないとイケないので。」

「悪いけどおねがいね。」

優子母退場。

「優子、俺が隣でいいのか？」

「もちろん。にしてもなんかすごいわね。」

「なにがだ？」

「今日、初めてあつたのに付き合ったなんて。」

「しまった！」

「優子、すまない。明日の俺は生きて会えるか分からない？」

「なんで？」

「クラスメイトが嫉妬により暴走するからだ。」

「私も手伝うわ。」

「すまない。おやすみ、優子」

「いきなり話題かえないですよ。」

「そろそろ寝ると思ったからな。」

「なら、腕貸して。あたし、ひいろの腕を抱いて寝る。」

優子が寝息を立てて寝てる。

写真を撮って寝た。

第17話（第17問）木下家の夜と添い寝と暴走（後書き）

前回に続きベタな話でした。次回学校までいけるかな？

第18話（第18問）木下家の朝と登校と暴走（前書き）

さあ、このカップルが無事に学校に着くのでしょうか。

第18話（第18問）木下家の朝と登校と暴走

第18話

木下家 朝

緋色 side

目が覚めると優子に抱きつかれていた。

「優子、悪いがどいてくれないか。」

「いや、ずっとこうしている。」

「下着見えてるぞ」

もちろん嘘だが

「緋色だから問題ない」

「秀吉、助けてくれ！」

「どうしようかのうー」ニヤニヤ

「助けないと朝食、昼食抜きだぞ！」

「なぜじゃー」

「お前のカーさんにたのまれたからだ。だから頼む」

「優子、俺はしつこい女は嫌いだ。」（緋色の声マネ）

「私のこと嫌い、緋色？」

「もちろん好きにきまっている。」

「わかった。どく。」

「ありがと、優子。ついでにさっきの台詞いったのは、秀吉だ。」

「俺は朝食でもつくるか。」数10分後

「とてもおいしい。」

「とてもおいしいのじゃ」

20分後

「いくぞ、優子。」

「うん、緋色手を繋いでいこ。」

「警戒しておけよ。お前は俺がまもるが。」

シュッ ザクッ

カッターがきに食い込む。

「優子すまない。」

「な、なに。」

優子を横にして持ち上げる。そしてにげる。

第18話（第18問）木下家の朝と登校と暴走（後書き）

第一回サバイバル大会スタート

第19話（第19問）カップルの朝と登校と暴走（前書き）

学校に無事つけるか。スタートです。

第19話（第19問）カップルの朝と登校と暴走

第19問

緋色 side

今、おれは優子を横に抱いてはしっている。俗にいうお姫様だっこというやつである。

取り寄せたバスターライフル（人サイズ）を使いたい、場合によっては優子に被害がでるためつかわないでいる。

こんなこと考えながら走っていて軽くカッター二十本はよけた気がするが問題ない

少しでも優子をみたら走れないことになりそうな気がするので視界にいれずはしっている。

逃走すること二十分やつと校門に着いた。

「どうした？緋色、お前が女子をさらうなんて。」

「先生、違います。」

「お前等は付き合っていたのか？色恋沙汰までは言わないが、授業をなまけないように。」

「はい。先生また後で。」

急いで教室に向かう。

そしてリーダーを見ながら、敵を待つ。

「やった。いちばんのりだー」

「ターゲットロックオン、はかいする。」

「ぎゃあああああ」

明久の断末魔の叫びをBGMに凶戦士達が襲いかかってくる。

バスターライフルを放った。黒い山があつたが気にしなかったが

第19話（第19問）カップルの朝と登校と暴走（後書き）

次回Bクラス戦の予定です。トロワあたりを出そうかと思っています。

第20話（第20問）卑怯と変態と鬼畜野郎（前書き）

二十話連載記念。五十話までに書いて欲しい話があったらおねがいします。

第20話（第20問）卑怯と変態と鬼畜野郎

第二十話 燃え尽きない流星？

緋色 side

「おい、明久Bクラスに宣戦布告にいつてこい。」

明久の状態を気にせず雄二が言う。

「待つてよ！雄二。僕の状態をみて、なぜ、そんな台詞がでるんだよ？」

「だって、緋色のバスターライフルをモロに喰らっただけだろ？」
「だけではすまないと思うが？」

「おい、明久、もし行ってくれたら、お前が大好きな姫路に告白する権利をやる。」

適当に言ってみる

「でも、姫路さんに迷惑だし、みんなに襲われるじゃないか？」

「おはようー、みんなー」

デュオか、ちょうど良い

「おい、デュオ！明久が告白するらしいからじゃまな奴を撤去するぞ。」

「了解」

「緋色、どういう状況じゃ？」

「明久！するのは放課後にしろ！とりあえず行ってくれ。」

「いつてくるよ。」

数分後

「ねえ、雄二！Bクラスって美少年ずきっていったのになんで襲ってくるか、理由を聞こうか？」

「「「お前がおもしろいから。」」」

「貴様等殺しきる！」

はああああ（明久が襲う声）

バアアアン（バスターライフルの発射音）

ガンガンガンガン（雄二が明久を蹴る音）
どさっ（デュオが屍の山に載せる音）
「「「死体44体いっちょあがりー」」」

第20話（第20問）卑怯と変態と鬼畜野郎（後書き）

デュオと緋色と雄二のすばらしいコンビネーション

第21話（第21問）昼食と薬と墮天使（前書き）

Bクラス戦スタート（の予定です）

第21話（第21問）昼食と薬と墮天使

第21問

「明久、戦争はいつからか？」

「午後からだよ。」

「午後からか。ならいける。デュオ、悪いが姫路のボディガードあたりになってくれないか？」

「なんで姫路さんなの？」

「「自分の頭をつかえ！」「」

「午後からなら飯にしようぜ！」

「ああ。」

「おい明久、秀吉が女になったらどうする？」

「きゅうにどうしたの？緋色？」

「あいつの飯に性転換薬をまぜておいた。」

「ほんとに？でも秀吉は迷惑じゃないの？」

「戻す薬もちゃんとある。」

「さすが緋色！ところで早く行こう。塩水が僕らを待っている！」
「お前だけだ。」

屋上

ばた。

「秀吉、どうした？」

「少し眠ってもらっているだけだ。」

「緋色！」

「秀吉を少しかりるぞ。」

「理由を説明しろ。」

「明久、たのんだ。」

「頼まれた。みんなよく聞いて秀吉はこれから女になるんだ。」

第21話（第21問）昼食と薬と堕天使（後書き）

秀吉が女になってしまいました。

第22話（第22問）秀吉と薬と性転換（前書き）

秀吉視点でいきます。

第22話（第22問）秀吉と薬と性転換

第22問

秀吉 side

ここは、たぶん、空き教室じゃな。じゃがなぜ此処にいるのじゃろ
うか？

「緋色！わしは一体？」

「俺のせいでおまえは女になった。」

「なんじゃと。」

「もし、いやならこの薬を飲め、そうすれば男に戻る。早くした
ほうがいい。ついでに優子とお前の母さんの許可は得た。」

「わしは、このままでいいのじゃ。今から女なのじゃから、明久を
好きでいても自然じゃからのう。」

「やはりな。ついでに今晚のニュースでこの薬はでる。はやく戻る
ぞ、秀吉。」

「わかったのじゃー！」

屋上

「すまぬ、またせたのう。」

「迷惑かけてすまない。」

「明久よ、」

「何、秀吉？」

「わしとつき合ってくれぬかのう？」

「僕なんかでよければよろこんで。」

「「え」」

島田、姫路、すまぬのう。

「「やっぱりな。」」

なに、気付かれていたのじゃと？

「「「おめでとう。明久」」」

「デユオはともかく、ムッツリーニと雄二が素直に祝福するなんて

意外だね」

「「しつれいな」」

「ところで、姫路に告白はもういいのか？」

「あ、わすれていたよ。」

第22話（第22問）秀吉と薬と性転換（後書き）

また、すぐ結ばれちゃいました。すみません。感想、お待ちしておきます。

第23話（第23問）処刑と作戦会議と僕の関節（前書き）

姫路と島田はどうなるか。また、Bクラス戦は？文才ありませんが、宜しくおねがいします。

第23話（第23問）処刑と作戦会議と僕の関節

第22問

緋色 side

「それはないだろ、明久。」

「姫路さん、ごめんなさい。」

「私は明久君には、明久君のつき合いたい人と付き合えばいいとおもいます。しかし、諦めていないので、破局したら、私と付き合ってください。」

「破局したら、よろこんで。」

ゴキッ

「ぐわああああ。腕の関節がー。さては美波かー。あれ？美波じゃない。秀吉が、そんな訳するはずがないよ。」

「いいや、わしじゃ。すまぬ、明久が破局後の話をしたから、つい。明久、わしのときらいかのう？」

明久が秀吉を抱きしめて頭を撫でながら言う

「僕は秀吉を嫌いにならない。ずっと、秀吉を愛している。」

「「天然たらしだな。」」

「「なんで、僕がたらしなの？」」

「「Bクラス戦についてだが、」」

「「待てい、僕と秀吉はもちろん一緒だよな？」」

「「当然だ。」」

「緋色はバスターライフルで敵を掃討する。ある程度減らしたら、補給試験に行つてこい。」

「了解。」

「デュオは緋色の補給中に突破してくれ。そして、追いつめたら緋色と一緒にクラスの壁にヒビをいれ、明久が奇襲する。」

「よっしゃー、斬って斬って斬りまくるー！」

「それ、怒られるのは、僕だよな？」

第23話（第23問）処刑と作戦会議と僕の関節（後書き）

早くて次からBクラス戦です。

第24話（第24問）作戦会議と嫉妬と処刑（前書き）

作戦会議編？第2弾スタート。

同時に書いている。僕と親友と召喚獣も宜しくお願いします。

第24話（第24問）作戦会議と嫉妬と処刑

第24問

「でも、怒られるのって、僕だよね？」

「だが、秀吉の看護がある。」

「この僕にまかせろ。」

「そういえば、お前の好みは、巨乳でボニーテールじゃないのか？」

「それは、二次的な趣味で、現実がちがうからね。秀吉。」

「なら、キスしてほしいのじゃ。」

「なんで、そうなるの？」

「わしの事きらいかのう？」（涙目＋上目遣い）

「違うよ。僕は、周りに誰もいないならいいけど、」

「みんな、明久と秀吉を置いて解散！」

戦争 開始前

「根本には彼女がいる。皆憎くないか？」

「「殺せええー」」

「一緒にいちやつきながら飯を食べているんだぞ！」

「「なんだってー！」」

「しかも、昼飯は彼女の手作りだ！」

「「彼奴を殺してやる。」」

「皆、だから、緋色に敵陣に穴を開けてもらいデュオが切り開く。

その後に突撃してくれ。報酬は、根本の破局だ。」

「「「イエス、マイロード！」」」

「よし、根本を処刑するぞー！」

「「「うおおおおお」」」

第24話（第24問）作戦会議と嫉妬と処刑（後書き）

報酬すごいですね。次回クラスB戦スタート

第25話（第25問）敵代表と死神と堕天使（前書き）

クラス戦スタートある程度省略して書かせていただきます。

第25話（第25問）敵代表と死神と墮天使

第25問

緋色side

廊下

「二年Fクラス緋色由比が此処にいる生徒すべてに物理勝負を申し込めます。サモン」

緋色由比 Fクラス

物理837点

「ターゲットロックオン。破壊する。」

Bクラス生徒 10人 戦死

「なんだ、あの化け物、退けー」

「遅い」

バスターライフルから熱戦がでる。

Bクラス生徒10人 戦死

クラス教室前廊下

「緋色、俺にも仕事くれよ。」

「なら、お前がやれおれは先にいくぞ。」

デュオside

「了解。こちらデュオ・マックスウエル斬って斬ってきりまくるー！此処にいる生徒全員に数学勝負を申し込む。サモン」

デュオ・マックスウエル

数学 768点

「彼奴、化け物だ！」

「俺をみた奴はみんなしぬぜー。」

「消えた！」

「死神様の御通りだー！」

ぎゃー×15

「戦死者は補修ー！」

「ご苦労さまです。ガトー小佐」

「ああ、デュオ、がんばるんなだな。」

「さて、緋色の場所にいきますか。」

第25話（第25問）敵代表と死神と堕天使（後書き）

次回Bクラス戦決着の予定です。

第26話（第26問）敵代表と女装と漁夫の利（前書き）

Bクラス戦決着の予定。

第26話（第26問）敵代表と女装と漁夫の利

第26問

緋色 side

「戦争終了ー！」

「早いよ！」

Bクラス教室

「戦後対談と処刑の時間だ」「根本を殺せー！」「みんな、待つんだ。対談が終わって用事を済ませた後だ。クラスの皆さんも一緒に殺りませんか？」

「喜んで。」

全生徒が声を重ねて言う。ところで用事とはなんだ。

「雄二、ところで用事とは？」

「根本の女装写真集の撮影と女装したままAクラスに戦争の準備があると伝えてこい。」

「誰が…」

「しない場合には、畳と卓袱台だ。」

「雄二、俺は帰っていいか？」

「ああ。秀吉と明久も帰っていいぞ。」

「後は任せるね雄二。」

気持ち悪いものを見たくないなので急いだ。

Aクラス

「優子、一緒に帰らないか。帰るなら急げ！」

「緋色！一緒に帰ろ」

といって抱きついてくる。

「お見舞いにも行くが、いいな？」

「うん」でも、なんで急いでいるの？」

「女装した根本が来る。」

この一言で優子が凍り付いた「優子、いくぞ！」

急いでリリーナのいる病院に急いだ。

第26話（第26問）敵代表と女装と漁夫の利（後書き）

Bクラス戦決着。Cクラスは、根本の女装写真で片づけました。

第27話（第27問）緋色と優子とリリーナ（前書き）

なんか、放課後の話はなくなりそうですが、少しでも短くしようとおもいます。

第27話（第27問）緋色と優子とリリーナ

第27問

緋色 side

「優子、掴まれ。」

「うん。ところで、今から会う人ってどんな人？」

「リリーナ・ドーリアンと言えば分かるか？」

「あのドーリアン外務次官？」

「ああ。」

「なんで、緋色はそんな人のしりあいなのか？」

「元クラスメートであり、俺を変えた奴だからだ。」

「なら、ドーリアン外務次官の事好きなの？」

「ああ、だが、お前に会う前までだが。」

「ついでに言えば、リリーナの兄はゼクスだ。」

「マーキス先生が？ところで、なんで呼び捨てにしてるの？」

「彼奴とは地球の命運をかけ戦った奴だからだ。彼奴はホワイトフ

アングの指令官だったしな。」

「ふーん」

病院 とある一室

ゼクス side

「リリーナ、いるか？」

「緋色、患者は基本病室にいますよ。」

「その声は、緋色と木下か？」

「木下？誰ですおにいさま？」

「学園の生徒だ。」

「すみません。マーキス先生。団らんの邪魔をしまして。」

「緋色、余計なことを教えるな。ところで、木下、お前と緋色の関係は？」

「気にするな、ゼクス、単なる恋人だ。」

「単なるですまない気がするが、お前に恋人とはな。」
「お前だって妻がいるじゃないか。」

第27話（第27問）緋色と優子とリリーナ（後書き）

ゼクスと緋色ってこんなに仲が良かったのでしょうか。
感想、アンケートをお待ちしています。

第28話（第28問）ゼクスとノインと夫婦関係

第28話

ゼクス side

「物理のルクレツァ・ノインだ」

「決着を付けるぞ、緋色。」

「ゼロの予測では、お前に未来はない。」

「先生、緋色静かにしてください。」

「「すまない。」」

「ところで、夕飯食べてないだろ？何処か食いにいかないか？」

「ノイン、私だ。回転寿司の予約をとっておいてくれ。そこに、トラスがあつたはずだ。」

「なぜ、回転寿司？」

「一度、行ってみたかったんだ。」

「奇遇だな。俺もだ。」

「でな、リリーナ帰らせていただく。」

外

「すみません。手伝ってもらっていたら、遅くなつて夕食を食べさせて送るので。緋色？いますが、はい、わかりました。」

「では、行くか。」

「この車、まるでトールギスだな。」

「ああ、肝臓が潰れかけたことや、オットーを思い出す。」

「それ、冗談ですよね？」

「真実だが、気にするな。緋色、そういえば、残り三人が転入するらしい。」

「なに？本当か？」

「一週間後だな。」

「まさか、トリーズは教師じゃないよな？」

「あいつが死んだのをみたはずだ？」

第28話（第28問）ゼクスとノインと夫婦関係（後書き）

さすがに、トレーズは無理ですね。優子が二人の会話から取り残されている

第29話（第29問）ゼクスと緋色と回転寿司（前書き）

もつじき、連載三十話。

ふつつかものですが、よろしくお願いします。

第29話（第29問）ゼクスと緋色と回転寿司

第29話

ゼクス side

「緋色と木下、回転寿司という店はなにがでてくるんだ？」

「寿司という食い物が回ってくるんじゃないか？」

「寿司とは、なんだ？」

「寿司は、魚などをご飯の上にのせて食べるものです。」

「おいしいか？」

「ええ。日本文化の代表の一つですから。ところで、先生は何処からきたんですか？」

「木下、その話を聞くには条件がある。一つは、誰にも話さないこと。そして、もう一つは、驚かないことだ。」

「私の本名はミリアルド・ピースクラフト。サンクキングダムの子だ。」

「完全平和主義のくにですよね？」

「ああ、そのとおりだ。」

「そろそろ、着くようだ。」

「ノイン、すまないな。待たせてしまつて。」

「はい、10分27秒の遅刻です。」

「では、入ろうか。すまないが、木下、いろいろ教えてくれないか？」

「分かりました。着いてきてください。」

私は今日、はじめて回転寿司について理解した。

「デユオ達がいるので、軽く宴会でもしましょう。ゼクス。」

「今日は私の奢りだ。」

小宴会が始まった。

第29話（第29問）ゼクスと緋色と回転寿司（後書き）

次回は宴会の前にキャラ紹介3をしようと思います。

第30話（第30問）兵士と平和と小宴会（前書き）

連載三十話。これからもよろしく願います。

第30話（第30問）兵士と平和と小宴会

第三十問

緋色
side

「なあ、優子？ 寿司屋って宴会する場所なのか？」

「私の中じゃ違うけど。」

「よお、緋色！なんだ彼女さんと一緒か？」

「「**緋色に彼女だと！**」」

「緋色に彼女だってー！」

失礼すぎるぞ。

「デュオ、冗談がすぎるぞ。」

「そうだよ、お前を殺すとか、自爆するとかばかり言う人に彼女が居るわけじゃないか。」

「お前らしくない。」

「だが、残念だねえー、いつもみたいに酒を飲みたかつたんだけどね。」

「そんなことしてるんですか？」

「うん、そうだよ。僕はカトル・ラバーバ・ウィナー、よろしく。」

「トロワ・バートンとでも名乗っておこう」

「俺の名は張五飛だ。宜しく頼む。」

「木下優子です。宜しくお願いします。」

「木下、お前も飲め。」

「でも、」

「優子、飲まないなら、口移しでも入れるぞ。」

「分かった。飲むわよ。」

「では、平和になったことの喜びに乾杯！」

「かんぱーい！」

宴会が始まった。

第30話（第30問）兵士と平和と小宴会（後書き）

どうも、作者です。アンケート、意見、感想をお待ちしています。

第31話（第31問）墮天使と酒と優子（前書き）

僕と親友と召喚獣もよろしくお願いします。

第31話（第31問）墮天使と酒と優子

第31問

緋色 side

「木下、飲まないのか？」

「いや、人が多くて、飲みづらいですから。」

「気にするな。おい、カーンズ！ワイン一本追加だ。」

「分かりました。ミリアルド指令。」

「今は、マークスさ。」

「優子、のまないなら…」

「飲むわ。」

「一気に飲み干した。待て、これとても、アルコール強いぞ。」

「ゼクス！計ったな！」

「何の事だ？」

「貴様が…」

「緋色♪」

優子が抱きついてくる。

「口移ししてよ♪それがキスしましょう♪」

「緋色も隅に置けないねー」

「デュオが言えることじゃないよ。」

「五飛も早く彼女を作った方がいいんじゃないか？」

「俺には、立派な妻がいた。そいつを裏切る事は出来ない。」

「へー、そうか。ところで、緋色、木下さんはどうするんだ？また、

お姫様だっこのか？」

「たぶん、そうなる。」

ボタン 優子が倒れる。

俺はそれを支える。

「ゼクス、優子が酔っているから今回はもう帰らせてもらっつ。」

「ああ。眠ってるからって襲うなよ。」

「貴様じやあるまいし。それじゃ、また明日。」
優子を連れて自分の家に帰った。優子はちゃんと家に送って。

第31話（第31問）墮天使と酒と優子（後書き）

次、Aクラス戦の予定。感想もお願いします。

第32話（第32問）墮天使とバカと木下家（前書き）

今回は木下家の朝のお話です。

第32話（第32問）墮天使とバカと木下家

第32話

緋色 side

朝はなにもなく、俺は優子を迎えにいった。

木下家

「優子、いるか？」

「優子はまだ寝てるわ。緋色君起こしてきてくれない？」
「分かりました。」

優子の部屋

「優子、入るぞ。」

とりあえずいつておこう。起きてた時があれだから。

「優子、起きろ。」

「あと五分。」

デュオのモーニングコールをぱくるか。

「早く起きないと添い寝するぞ。」

「え、緋色？どうして此処にいるの？」

「彼女の部屋に彼氏がいたらおかしいか？」

「おかしいわよ！」

「おはよう、優子。お前の母親に起こせといわれたからだ。」

「ふーん。おはよう、緋色。」

「俺は下で待っている。準備が終わったら来い。」

木下家 リビング

「なんだ、明久、お前もいたのか。」

「緋色、なんで此処にいるの？」

「それは、こっちの台詞だ。」

「え？僕は秀吉の家に泊まったからだよ。」

「おい、秀吉の母親に乗せられたか？」

「うん。気づいたらキスしながら寝てたよ。」

「すごいな、おい。」

「二人ともお待ちせ（なのじゃ）。」「」

彼女が来た。

「明久、一緒に逃走しないか？」

「逃走？誰から？」

「クラスメイトからだ。優子、今日も横抱えでいくぞ。」

第32話（第32問）墮天使とバカと木下家（後書き）

予告通りになりませんでしたね。次回、登校中のお話。

第33話（第33問）墮天使とバカと処刑（前書き）

地獄の鬼ごっこみたいな感じになるとおもいます。

第33話（第33問）墮天使とバカと処刑

第33話

緋色 side

「優子、これを使って切り抜けるぞ。」

「うん。ところで、これ何？」

「ビームサーベルを人の大きさに合わせた感じだ。安心しろ、負うのは火傷ぐらいだ。明久、秀吉、お前らの分だ。」

「安心できないんだけど。」

「さあ、いくぞ。俺に着いてきてくれ。」

「早速か。邪魔だ。」

「ぎいやああああああ」

久々に聞くと悪くないな。

「緋色！吉井！てめえらのせいで俺の木下ハーレム計画が崩れたじゃないか。」

「言いたいことはそれだけか？ターゲットロックオン、破壊する」

「ぐわああああああ」

「死ねエイイイ！」

「よし、行くぞ、学園は近い。」

「うん。」

文月学園

「西村先生、おはようございます。」

「西村先生、おはようございますなのじゃ。」

「おう、緋色夫妻と、吉井夫妻おはよう。」

「なぜ、貴様がそれを知っている！」

「冗談だったか、本当だったのか。」

「先生が冗談を言うなんて珍しい。」

「まあ、恋愛については、何も言わないが、なまけるなよ。」

「分かりました。」

「了解なのじゃ。」

Aクラス前

「じゃあ優子、後でな。」

「うん。」

俺達はFクラスに向かった。

第33話（第33問）墮天使とバカと処刑（後書き）

次回Aクラス戦の予定です。感想を宜しくお願いします。

第34話（第34問）転校生と戦争と処刑（前書き）

Aクラス戦の予定です。転校生は事前に出しています。

第34話（第34問）転校生と戦争と処刑

第34話

Fクラス

緋色side

「今日、男子の転校生が三名来ます。入ってください。」

「俺の名は吐露話・バートンとでも覚えていてくれ。」

「僕はカトル・ラバーバ・ウィナーです。宜しく。」

「俺は張五飛だ。宜しく頼む。」

「お前等、来るの早すぎだ！」

「こいつ等も元ガンダムのパイロットだ。」

「なぜそれを！」

「雄二の知り合いにハワードのじいさんがいるんだよ。」

「そうゆう事だが、置いていて、俺達はAクラスに戦争を仕掛ける。

勝つために俺が翔子と一騎打ちをする。」

「コイツはトレーズとでもつながっているのか？」

「五飛、それは違う。彼奴の戦略眼はゼクス並だ。」

「ほう。それは見物だな。」

「クラスに交渉しに行く。ガンダムのパイロットと吉井夫妻は着いてこい。」

「吉井をころせー！」

「待つんじゃ、明久に何かした奴はコイツで斬らせて頂くのじゃ。」

「緋色、女子になんてもの持たせてるんだよ。」

「御身用だ。ちなみに、雄二と学年主席は両想いで婚約者だ。」

「坂本を殺せー！」

「いくぞ。明久、秀吉。」

「雄二と言う奴はあのままでもいいのか？」

「吐露話、心配するな。彼奴と明久は伊達じゃない。」

第34話（第34問）転校生と戦争と処刑（後書き）

次回交渉のお話です。

感想を待っています。

第35話（第35問）代表と交渉（前書き）

今回は交渉のお話です。

第35話（第35問）代表と交渉

第35話

緋色 side

「先にAクラスに行くぞ。彼奴なら後から来るはずだ。」

「彼女に会いたいから？」

「彼女って優子さんだよ？えっと…」

「明久とよんでよ。カトル君。」

「カトルでいいよ。僕は常識がない人間だから、呼び捨てでいいよ。」

「理由になってないと思うけど、カトルの言うとおりだよ。会ったことあるの？」

「昨日、ちよつとね。」

「明久、カトル、置いていくぞ。」

「待ってよ。」

Aクラス

「緋色、会いたかった。」

「どんだけ寂しがり屋なんだ、お前は。」

「君が優子の彼氏君？」

「ああ。お前は誰だ？」

「工藤愛子だよ。宜しくね。保険体育の実技が得意だよ。」

「デユオ、保険体育って何だ？」

「運動とかじゃねえの？」

「そつなのか？優子？」

「ええ。というより話を進めましょ。」

「代表同士の一騎打ちを提案する。」

「雄二！いつからいたの？」

「断るわ。なら、5対5にしましょ。いいでしょ、代表？」

「いい。だけど勝った方が言うことを聞くことこれが条件。」

「分かった。その条件をもう。今から始めていいか？」

「こっちはいいわ。」

「明久、クラスメイト達を呼んでこい。」

第35話（第35問）代表と交渉（後書き）

次回Aクラス戦スタート

第36話（第36問）緋色と優子と一回戦（前書き）

今回は第一回戦のお話です。

第36話（第36問）緋色と優子と一回戦

第35話

緋色 side

「これよりAクラス対Fクラスの試験召喚戦争を開始します。選手は前に。」

「俺が出る。」

「任せた緋色。」

「任せられた。」

「Fクラス緋色由比、数学勝負をします。サモン」

「木下優子が受けます。サモン」

緋色由比 678点

木下優子 362点

「ええ！」

「どうした、おかしかったか？」

「悪いな、優子。すまない。」

「ターゲットロック破壊する。」

「え？」

緋色由比 536点

木下優子 1点

「ギブアップする。」

「え？」

「おれはあの子とあの子犬のような人は存在してほしくない。俺のせいで優子や関係ない人間が不幸になるのはおかしいからだ。これが降参の理由だ。」

「緋色、ありがと。」

「勝者Aクラス」

「すまない、俺のミスで」

「大丈夫だよ、緋色。ほかの人ががんばってくれるさ。」

第36話(第36問) 緋色と優子と一回戦 (後書き)

Aクラス戦第二回戦を次書きます。

第37話（第37問）バカと左手と捨て駒（前書き）

二回戦スタート

第37話（第37問）バカと左手と捨て駒

第37話

緋色side

「第二回戦を始めます。選手は前へ。」

「明久、お前の本気をみせてやれ。俺は信じている。」

「やれやれ、それは僕に本気を出せっていうこと？」

「ああ、もちろんだ。」

「Aクラス久保利光、現代国語勝負をします。サモン」

「Fクラス、吉井明久サモン。実は僕、左利きなんだ。」

Aクラス久保利光 321点

Fクラス吉井明久 62点「ぐふあああああ！」

「みんな、今から本気で行くぞ！」

「信用してたんじゃないの？」

「してたさ。捨て駒として。」

「明久、大丈夫かの？」

「僕の味方は、秀吉だけだよ。」

「俺達は？味方か？」

「もちろん味方さ。いう必要がないじゃないか。」

「明久、わしとは心が通じあえないのかのう？」

「何いつてるんだい秀吉、君とは人生の二人三脚を始めたばかりなんだ。あの5人より大事だからいったんだよ。」

「嬉しいが、人前では照れるのじゃ。」

「先生、女たらしがいます。」

「どこがたらしなのさ。」

「とりあえず同点になるまでがんばろう。」

「待つて、無視なの？」

「明久、秀吉と保険体育の補修に逝ってこい。」

「おい雄二、それは次の試合が学年1エロい男子対エロい女子だか

第37話（第37問）バカと左手と捨て駒（後書き）

次回三回戦とたぶん四回戦を書きます。
感想をお待ちしております。

第38話（第38問）論理派と実技派と保険体育（前書き）

四回戦もいけたら書きます。

第38話（第38問）論理派と実技派と保険体育

第38話

緋色 side

「これから三回戦を始めます。選手は前へ。」

「…俺に任せろ。」

「…クラス土屋康太保険体育勝負を申し込む。」

「僕も保険体育得意なんだよ。君と違って実技でね。」

ぶふああああああ

「ムツツリーー二！大丈夫？今医者を呼ぶから。」

「君か緋色君が交代する。保険苦手そうだね。よければ教えるよ、実技でね。」

ぐほああああああああ×2

「明久にはわしがいるから必要ないのじゃ。」

「そうよ。緋色には永遠に來ないから。」

「早く始めてください。」

「「サモン。」」

土屋康太 572点

工藤愛子 468点

「加速。」

土屋康太 524点

工藤愛子 0点

「勝者Fクラス」

「そんなこの僕が」

「工藤さんだよ、あの勉強教えてくれないかい？」

「僕なんかでいいならいいけど、何で？えつと…」

「カトルだよ。君はクラスの中で一番楽しそうにしてるからだよ。」

「なら放課後に校門で待っててね。」

「うん。」

第38話（第38問）論理派と実技派と保険体育（後書き）

次四回戦いく予定です。

第39話（第39問）AクラスとFクラスと戦争（前書き）

四回戦スタート

第39話（第39問）AクラスとFクラスと戦争

第39話

緋色 side

「これより四回戦を始めます」

「姫路瑞希行きます。」

「佐藤美保が受けます。」

「サモン」

佐藤美保 362点

姫路瑞希 452点

「勝者Fクラス。」

「これで同点だ。雄治、任せたよ。」

「Fクラス代表の坂本雄治だ。教科は日本史で小学生レベルの上限ありだ。」

「霧島翔子、受けます。」

「分かりました。問題は用意しています。教室を変えてします。不正行為は無得点扱いです。では、始め！」

テスト中

「結果発表をします。霧島翔子97点。坂本雄治53点。勝者、Aクラス。」

「殺せ。」

「落ち着け、雄治、いくら交際相手がヤンデレだからって。俺はお似合いだと思うが。」

「緋色はいい人。雄治、今からデートに行く。」

「告白すらないのか？ぐふあああ。」

「優子、お前の願いはなんだ？今日から一緒に暮らしましょう。」

「「緋色を殺れー！」」

「優子、逃げるぞ。だがおやが許可したのか？両親に挨拶すらして

ないが。」

「うん。今から行きましょう。」
クラスの負けで戦争は終わった。

第39話（第39問）AクラスとFクラスと戦争（後書き）

次の次あたりに吐露話などの自己紹介行こうと思います。

第40話（第40問）緋色と優子と優子の両親（前書き）

オリ話の予定です。清涼祭前にいくつか話を入れようと思います。

第40話（第40問）緋色と優子と優子の両親

第四十話

緋色 side

インターホンを鳴らして待つ

「待ってください。あら、優子、緋色君。どうしたの？」

「えっとね、お母さん、話があるの。」

「同棲なら普通にいいけど、緋色君の家の人に迷惑がかかるんじゃない？」

「大丈夫です。一人暮らしですから。」

「その代わりに日曜日には二人でこの家で過ごさない。これが条件。お父さんも喜んでいたのよ。腐女子に彼氏が出て。」

「引越し会社に連絡しとくわ。後でいくから。」

「こんな簡単に許可されていいものなのか？」

「さあ？それより行きましょ。夢の同棲生活。子供の名前はどうかする？」

「飛びすぎだ。落ち着け。」

「分かったわ。とりあえず行きましょ。」

緋色の家

「優子は料理できるのか？」

「出来ないわよ。」

「なら、教えてやる。」

「すまない、電話だ。」

「もしもし、緋色ですが。明久？どうした？秀吉が同棲しようって言い出した。すまない、優子のおやがあっさり許可してくれたからみたいだ。」

「「お互いがんばろう。幸運を祈る。」」

「八時に公園集合だ。」

「分かったよ。ばいばい。」

第40話（第40問）緋色と優子と優子の両親（後書き）

次回キャラ紹介。

感想待っています。

キャラ紹介 3 (前書き)

おきにいり登録が八件あつて驚いています。ご期待を裏切らないように努力したいと思います。

キャラ紹介 3

キャラ紹介

吐露話バートン（トリトン？元ヘビーアームズのパイロット）

身長 原作より伸びている

体重 変化なし

髪 色は同じで髪型は原作より少し短め

目 原作と同じ

性格 原作と同じ

ヒロイン候補 小山友香

召喚獣 ヘビーアームズのような奴。

武器 アーミーナイフ（腕についてるナイフ）

腕輪 ガトリング 10秒に30点消費

ミサイル 10発 20点消費

フルオープンアタック（一斉射撃）一回百点消費

伽兔流・ラバーバ・ウイナー

身長 変化なし

体重 変化なし

髪 変化なし

目 変化なし

性格 他利愛・下手したら暴走（黒カトルみたいに。詳しくは新機動戦記ガンダムWのゼロと呼ばれたGを見れば分かると思います）

召喚獣 サンドロックみたいな奴でヒートショーターが武器（長いナイフ）

腕輪 召喚 一体につき10点消費

張五飛

外見 身長以外変化なし

性格 正義感が強すぎる

召喚獣	シェンロンガンダムみたいで、武器はビームグレイブ
腕輪	ドラゴンハング 一回10点
火炎放射	一回30点

キャラ紹介 3（後書き）

ちなみに張五飛とはチャン・ウーフェイと呼びます。分からない単語があつたら感想が何かで送りつけてください。前書きか後書きでお答えします。感想も一緒に送ってくださいと嬉しいです。ちなみに質問を前書き等で答えるのは同じ質問が来ないようにするためです。なんか長くなりました。すみません。感想、レビュー、質問、お待ちしております。

第42話（42問）墮天使と優子と甘い生活（前書き）

五十話連載記念に何か書こうと思っています。

第42話（42問）墮天使と優子と甘い生活

第42話

緋色 side

「優子、明久と秀吉呼ばないか？」

「いいわよ。別に。」

「こちらレッドワン。ブルースリー応答を願う。」

「こちらブルースリー、通信どうぞ、ビルゴを連れてこい。」

「了解。」

ビルゴとは秀吉のことだ。

「ほかに誰か来るの？マックスウェル夫妻とマーキス夫妻を呼ぼうと思う。」

「分かったよ。三分でついてみせる。」

電話中 マーキス夫妻とマックスウェル夫妻へ

数分後

「お邪魔します。」×4

「邪魔するぞ。」×2

「バカ代表どうして貴様が此処にいる？」

「呼ばれたからです。ところで、何で呼んだの？」

「ゼクス、デュオ、ノイン、持ってきたか？」

「もちろん。」

「明久、今日は飲むぞ。」

「まさか酒？まじで！」

「ああ、伽兔流はデート、五飛と吐露話はなんとなくだったが。」

「今日もめでたいしな。」

「何がだ？」

「二人の同棲が決まったからじゃないのか？」

「否、断じて否！」

「酒飲んでいいの？」

「教師がいいと言ってるから気にするな。飲まなかったら、秀吉の口移しで飲ませようと思ったが。」

「それ、昨日と台詞が一緒よ。」

「しかし、姉上がよく酒をのめたのが意外じゃった。」

第42話（42問）墮天使と優子と甘い生活（後書き）

この飲み会が終わったら学校のプールじゃなく川に行った話にしようと思います。

第43話(43問) 酒と飲み会と酔い (前書き)

アニメみたいにするか、小説のようにしようか待ってます。川の話
を終わらせてから。

第43話（43問）酒と飲み会と酔い

第43話

明久side

「「「「「かんぱーい。「「「「」

「酒は初めてか？吉井。」

「もちろん、初めてですよ。」

「注文を取りたいんだが、特上を三つ、五分で来い。」

「誰なの緋色？」

「寿司屋だ。明久が栄養失調だろうから。」

「「ほう、面白い奴だな。基本は塩水か？」

「そのとおりです。しかし、彼女がいるから改めましたけど。」

「明久の家は苦しいのか？」

「デュオ、それは違うのじゃ、趣味で食費を割いてまでゲーム等を買ってたからじゃよ。」

そのとおりさ。

「「「「さすがバカ、やることが違うな。「「「」

「待つてよ、僕は学力はもうAクラス並だよ。」

「優子、飲まないのか？飲まないなら強制的に口に流し込むぞ。」

「秀吉もだよ。」

「ちよつと待つて二人とも、さすがにそれは。」

「お願いね緋色。」

「頼んだのじゃ明久」

「「わかった。「」

「明久、ひとつ忠告する、木下家は酒に弱いらしい。」

「あきひさー。」

やばいマジで酔ってる

第43話（43問）酒と飲み会と酔い（後書き）

今回明久視点で書きました。ヒルデが久々に喋った気がします。質問、感想、お待ちしております。

第44話（44問）酒と飲み会と優子（前書き）

遅れてすみません。ところでユニークというものについて書いてい
ましたが、どういう意味なんですか？

第44話（44問）酒と飲み会と優子

第44話

緋色 side

「優子、飲んだらどうだ？」

「あたしが暴走したら緋色にまた迷惑がかかるじゃない。」

「気にするな、というより、明久は慣れだしてきてるぞ。」

「先生、もうないんですか？」

「「お前がたくさん飲んだからに決まっている。」」

「明久、お前はそろそろ帰ったほうがいいぞ。」

「何で？」

「優子が暴走するのもあるが、お前の妻が大変な事になってるからな。」

「秀吉、待つて。服を脱ぎだすなんてやめてよ、ほかの人がいるから。」

「明久、俺達はそのへんは大丈夫だが、お前がやばいぞ。」

「では、お開きにするか。」

「緋色ー、二次会しようぜー」

「無理だな。優子の世話があるし、子供の名前は考えなくていいのか？」

「わかったよ、帰るよ。いこうぜ、ヒルデ。」

「それじゃ、二人とも。また来週！」

「ああ、死ぬなよ。」

「りょーかい。」

マックスウェル・マークス夫妻帰りました。

「優子、大丈夫か？」

「だいじょーぶよー、ひーろ。」

やばいなにされるか分からない、寝るか。

「俺はシャワーを浴びて先に寝てるぞ。」

「あたしも一緒がい！」

「分かった、早く行くぞ。」

「うん」

風呂では何もなかった。

第44話（44問）酒と飲み会と優子（後書き）

次はプールの代わりに川に行く予定です。もちろん、緋色たちが。

第45話(45問)川とカップルと処刑の時間 (前書き)

投稿できずすみません。こついつ事があると思うのでご了承ください。

第45話（45問）川とカップルと処刑の時間

第45話

緋色 side

「こちらレッドワン、ブルースリー起きてるか？通信を願う」

「こちらブルースリー、ビルゴと食事中。用件どうぞ。」

「何処に行かないか？明久？」

「川はどうか？」

「おもしろい、おれはデュオとかに連絡する、雄二達には任せた。
後で連絡を頼む。」

「優子、起きろ。」

「待つて緋色ー、後五時間。」

「なら留守番任せた。俺は出かけてくる。多分夜までかかるだろう。」

「待つて緋色、置いていかないで。」

「早くしろ。」

明久の家

「「お邪魔します。」」

「緋色にお義姉さん。どうぞ。」

「緋色、吉井君、二日酔い？」

「彼奴の妻の姉はお前だ、間違つてかない。」

「おはよう雄二と愉快的仲間達。」

「扱い酷くない？」

「それでは行くか。」

「おい、ゼクス。」

「何だ緋色？」

「カーンズが居酒屋をやつてゐるらしい。吉井夫妻と共に一杯やるぞ。」

「そうだな。まず、それは後からだ。」

第45話（45問）川とカップルと処刑の時間（後書き）

オリ話スタート

第46話(46問)川と水着と生体兵器 (前書き)

カーンズが生きているそうです。緋色曰く

第46話（46問）川と水着と生体兵器

第46話

緋色side

メンバーは俺、優子、明久、秀吉、デュオ、ヒルデ、雄二、霧島、姫路、島田、ムッツリーニ、ゼクス、ノインだ。

「男子は待つことになるんだよな。ところでムッツリーニは大丈夫なの？」

「問題ない。99812通りのシュミレートし、すべて出血した。」

「安心しろ、楽にいかせてやる。」

「最初の人来たみたいだよ。」

「ムッツリーニ、どうした？」

「あれ、パッド。取ってくる。」

「アキー、キャッ」

「第二次成長期を弄ぶなど許さない。」

「ゼクス、ノイン、ところで泳がないのか？」

「必要ないからだ。」

「なぜ来た？」

「飲み仲間は多い方がいい。」

「緋色。」

「どうした、優子？」

「おかしくないわよね？」

「そのままできてくれ。」

「どうして？」

「写真に納める。」

「待て緋色、それは犯罪だ。」

「分かった。」

ちなみに優子は白のビキニである。

「なにがあつた？雄二の眼に。」

「霧島さんに：ぶっふおあ！」

「明久、ムツツリーニ、どうした？」

「生体兵器が。」

第46話(46問)川と水着と生体兵器 (後書き)

第49話には何かしようと思います。物語の中で。理由はガンダムWファンの人は分かると思います。

第47話（47問）川と鼻血と生体兵器（前書き）

今回は明久視点で行くつもりです。

第47話（47問）川と鼻血と生体兵器

第47話

明久side

「すみません、紐を結ぶのに時間がかかって。」

「「ぶふおああ！」」

「優子、何が起きている、前が見えないんだが。」

「お前もか緋色、実は俺も何だ。」

「雄二、何が起きている？」

「分からん、だが俺は眼をやられた。」

「ゼクス、何が起きている？」

「説明してくれるさ。」

「緋色、あれは兵器よ。」

「何、ならば破壊する。」

「緋色、落ち着け、たぶん、精神的な奴だろ。」

「みたいだな。優子、離してくれないか？」

「分かったわ、緋色。」

「状況を確認する。」

血を噴き倒れてるバカ 二人

眼を押さえながら苦しむ坂本夫

周りを警戒してる坂本妻

呆れてるマークス、マックスウエル夫妻

何か嘆いてる人？一人？

優子、明久、ムツッリーニ曰く生体兵器一人。

「「こいつら、相変わらずバカだな。」」

「明久よ、わしじゃ不満かの？」

「ごめん秀吉、待って、僕の関節で何する気なの？」

「へしおるだけじゃが？」

「だけじゃすまないと思うよ。でも秀吉の胸が当たって気持ちいい

な！。」

「明久よ、嬉しいのじゃが場所を考えてくれんかの？
確かに僕は変態みたいだな。」

「『お前、変態じゃ無かったのか？』」

第47話（47問）川と鼻血と生体兵器（後書き）

明久が変態みたいですネ、ファンの方すみません。次はトレーズが死んだ話数と一緒にですね。個人的にあのシーンは感動しました。知らない方はすみません。

ガンダムのパイロットとゼクスの思い出話（ウイング前半）（前書き）

何日ぶりかの投稿です。今回は原作に触れようかと思えます。

ガンダムのパイロットとゼクスの思い出話（ウイング前半）

番外編

「えー、今回はオペレーションメテオあたりについてお話しようと思います。」

「デュオ、誰に話してる？」

「いるか分からないけど、読者だよ。原作について知らない人いると思うから。」

「にしても凄かった、ガンダムは。」

「えー、この事件はA C 175年にヒロユイという伝説的指導者が暗殺された。」

「ア Deinロウという男にな。」

「詳しくは新機動戦記ガンダムWフローズンディアドロップの一卷と二巻をご覧ください。」

「カトル、宣伝はやめておけ。」

「分かったよ緋色。」

「その後に連合が正義の名を元に圧倒的軍勢力で制圧していった。そのため5人の科学者達はガンダニウム合金で作られたガンダムをA C 195年に地球へ送り込んだ。」

「そして地上に降り立ったガンダムは各地の軍事施設を破壊していった。」

「このとき緋色はサリイのおばさんに捕まえられて、輸送され、助けてあげたのに自殺しようとしたんだぜ。」

「確かにあのときの緋色なら自殺してただろう。」

「ゼクス、お前も聞いたけ、緋色は自殺ミスで骨折、右足の骨折を力だけでなおしやがったんだ。」

「緋色、骨折治せるんだ、凄いな。」

「次回は、ガンダム達が合流する時からです」

ガンダムのパイロットとゼクスの思い出話（ウイング前半）（後書き）

とりあえず五十話連載記念前に原作を少し理解してもらったためにこのような企画を立てました、五十話記念はまた別です

ガンダムのパイロットとゼクスの思い出話（ウイング前半2）（前書き）

原作を振り返ろう、ということでしたが、次からは本編に行こうとおもいます。

はい、トレースについて出す予定です。生きて欲しい方はどうか感想に生きたまま出せとでも書いて頂ければ結構です。

ガンダムのパイロットとゼクスの思い出話（ウイング前半2）

番外編2

「そのあと、トレーズの策で皆ニューエドワーズに集まったよな」

「ああ、あれは意外だった。」

「ワーカーについては触れないのか？」

「……ワーカー？」

「まあそれをおいとして、五飛はトレーズに負け、挫折し、戦意を喪失させた。」

「そうなの、あの五飛が。」

「あのあと女に励まされたお陰で立ち直れたがな。」

「それって？」

「サリイだ。」

「サリイのおばさんが？」

「ということは、05は女よりもガラスの心を持ってたのか。」

「だからマリーメア軍にはいったのか。」

「ゼクス、バートンの乱は後に説明がある、それまで、ネタバレは許さない。」

「その後、トールラス輸送作戦とガンダム掃討戦が始まった。」

「だが、俺達は猛攻に耐えきれなかった上に故郷に裏切られ、科学者達が降伏した、核で狙われてたしな。」

「緋色は自爆、吐露和に拾われ、俺はカトル合流、五飛はどっかいってオペレーションメテオはスペシャルズの勝ちで幕を下ろした。」

「オットーとワーカーがいなかっただと。」

「そいつは誰だ？」

「トールギスにのり肺が潰れながらも突撃して散ったよい部下だったよ。」

「肺がつぶれたあ？何があつたんだ？」

ガンダムのパイロットとゼクスの思い出話（ウイング前半2）（後書き）

原作を見ていた人は知っているでしょうが、トールギスは重装甲な上にスーパーバーニアというバックパックにより人の命が無視された反応速度を持つ強い機体で、ゼクスも最初は血を噴いたりしましたが、最終的には反応速度を越えました。トールギスについてはこの辺で。次からは本編です。感想ありがとうございます。

第48話(48問) 川と科学兵器と最速王者決定戦 (前書き)

最近、睡魔に勝てません。

第三作目を書こうと思います。意見があればお書きください
川編は次で終わる予定です。

第48話（48問）川と科学兵器と最速王者決定戦。

第48話

明久side

「大丈夫か？明久。」

「骨折して痛いんだけど。」

「「「「なんだ、それだけか。」「」「」」

「みんな、それは酷いよ。」

「いやー、俺達はもと兵士だし、緋色は自分で骨折治せるしな。」

「緋色、すごいね。」

「デュオ、明久の足を持ってくれ。」

「あいよ。」

「いくぞ。」

「うん。」

ごききつ

「ぐわわあああ！」

「この位でいいか。」

「ものすごく痛いけど確かに治ってる。」

その後、数時間泳いだ。

「あの、みなさん。」

「何かな、姫路さん？」

「じつは皆さんにワッフルを作りたいかったんですけど、四つ失敗して。」

「第一回」明久と雄二の声

「最速王者決定戦」緋色とデュオの声

「イエエエエ」秀吉と美波とムッツリー二の合いの手

「ルールの説明だ、明久。」

「りょーかい。単純に往復して帰ってきた人が勝ちだ。」

「いきなりどうしたんだ？」

「明日を迎えるための試練さ。」

第48話(48問) 川と科学兵器と最速王者決定戦。(後書き)

次回生き残るのは誰か、お楽しみに。ところで、巡音ルカの紅一葉という曲はいい曲ですね。

第49問 川と最速王者決定戦と最後の勝利者（前書き）

私はウイングのビデオを買いに行ったことがありまして、何故か1巻がなかったという悲劇がありました。

第49問 川と最速王者決定戦と最後の勝利者

第49問

緋色 side

「優子、気をつけろ、またあえることを願う。」

「どういうこと、緋色。」

「みれば分かる。姫路、自分のワッフルを食ってみろ。」

「あ、はい。」

バタッ

姫路の頭あたりから白いものが見えるが気のせいだ。

「是楠、優子、乃姻、デユオ、蛭手、行くぞ、カーンズの店に」

「緋色、大丈夫なのか？」

「問題ない、明久に愛があれば。おい、明久、愛の人工呼吸か、愛の打撃をお見舞いしてやれ。」

「緋色、それは無理、僕は秀吉がいる、だから、ムツツリーニ！」
「分かった、感謝する。」

明久 side

ドン

ありゃ、思いっきりやったな、ムツツリーニは。

「あ、康太君、ありがとうございます。」

「おまえが無事でよかった。」

うん、ピンクな空気だ、ハッピーエンドだ。

「みんな、そろそろ帰らない？ムツツリーニ達の為にも。」

「ああ、帰るか。」

「どっか、寄ってかない？カラオケにでも行こうよ。」

「…負けた奴は罰ゲーム」

「乗った！じゃあ行くか、女子勢などどうする？」

「もちろん行く。」女子全員の声

さあ、カラオケに行こう

第49問 川と最速王者決定戦と最後の勝利者（後書き）

ムツツリーニと姫路という、組み合わせは、自分でも驚きです。次は打ち上げ？です。

第50問 宴会と打ち上げ（前書き）

五十話連載記念打ち上げ編

今後僕と翼と召還獣をよろしくお願いします。

第50問 宴会と打ち上げ

番外編

明久side

「吉井明久から始めるー。」

「カラオケ対決ー」

「イエー！ー」

「ルール説明だ、明久。」

「また、酒飲みたいな、という僕の願望は叶わず、前略、坂本雄二へ。」

「なぜ、俺なんだ、明久の頭がいかれたので、翔子に続く。」

「歌を歌い、一番うまい人は好きな人とイチヤイチヤできる、という単純なルール。これでいいかな、雄二？」

「おかしい気がするが、いいだろう。」

カラオケで数時間

「帰るか、時間だしな。」

side out

ゼクスside

「邪魔するぞ、カーンズ。」

「これは、ミリアルド指令、久々ですな、緋色、そのおまえの横にいる平らな子娘は？」

「ねー、緋色、この人の関節をすべてとらせて頂くわ。」

「落ち着け、優子、ビームサーベルで切り刻む方にしないと可愛そうだ。」

「やめ、ぐわあああああああ」

カーンズ、今回は無料でいいだろう？ いやといたら。

「分かりました、指令、あなたのご意志に従います。」

カーンズが脳量子波を受け取ったか、変わったな、奴も。

数時間飲んだ後帰った。

第50問 宴会と打ち上げ（後書き）

オリジナル話はとうだったでしょうか？だいぶ圧縮したのであまりいい出来ではないと思いますが。

次回からは学園祭に行こうと思います。
感想をお待ちしています。

第51問 緋色と景品とオリエンテーション。(前書き)

明日からは秋ですね。

この話が終わったら、強化合宿の予定です。

第51問 緋色と景品とオリエンテーション。

第51話

緋色 side

「今日、何かあるのか？優子。」

「オリエンテーションがあるわよ。」

「オリエンテーション？」

「今回は宝探しみたいだけど、景品がいいのよ。」

「一体、何なんだ？また、薄っぺらい本か？」

「模擬結婚式よ。」

「優子、また学校でたぶん会おう。」

「ちよっ、待ちなさい緋色！」

通学路

「おはよう、雄二、明久。」

「おう、緋色か、今日、何があるんだ？」

「そうだよ、緋色、秀吉がトリップしてたんだけど。」

「今日、オリエンテーションがあつて、景品が模擬結婚式なんだ。」

「「かなりやばいじゃないか！」」

「それは俺も同じだ。」

「秀吉なら、即本番になっちゃうよー。」

「「俺達もだ。」」

「「「同盟を組むぞ！」」」

「「「「彼奴等を殺せー！」」」」

「雄二、ビームサーベルだ、受け取れ。」

「明久、おまえはあるのか？」

「うん、この通り。」

「一気に学園につっこむぞ！」

「「了解！」」

男子の屍を作りながら、学園に走り込んだ。

第51問 緋色と景品とオリエンテーション。（後書き）

原作とアニメとオリジナルを混ぜながら進行させようと思います。
感想、お待ちしております。

第52問 男子と女子とオリエンテーション。(前書き)

最近、勉強するきがまったく起きません。その分、こちらをがんばろうと思います。

第52問 男子と女子とオリエンテーション。

第52問

緋色side

ホームルーム中

「えー、組み合わせは男子は男子、女子は女子で組んでくれ、クラスは関係ないからな、以上！しっかり取り組むように。」

鉄人のがなにか話している、おれに未来があるか、不安だな。

「ちなみに問題児は集めてある。」

「なんだって！」

「良かったな、緋色、明久、同じだぜ！」

「ああ、未来を切り開く！」

オリエンテーションスタート

「結局は問題解くんだね。」

「当然だろ、明久、雄二、いい考えがある。」

「なんだ、緋色？」

「ウイングゼロを起動させる。」

「それは無理だろ。」

「明久は世界史、緋色はその他、俺は日本史を解く。」

「明らかに分配がおかしいだろ。」

「俺達は仮にもバカだしな。」

「任務了解、任務を遂行する。」

10分後

「とりあえず、行くぞ。」

体育館

「あつた、目標発見、焼き払うか？」

「せめて他の人にやれ。」

「次に行こうよ。」

「ああ」

俺達の未来は守られ^なは^なず^なだ^なつ^なた。

第52問 男子と女子とオリエンテーション。(後書き)

この後、強化合宿か清涼祭にするか迷ってます。ご要望等もお待ちしております。

第53問 男子と女子とチケット争奪戦。(前書き)

最近、更新のペースがおそくてすみません。

第53問 男子と女子とチケット争奪戦。

第53話

「こいつは、根本、清水、久保でいいよな？ 緋色。」

「答えるまでもない。」

「久保君って好きな人いるの？」

「ああ。」

「待ちなさい、緋色、吉井君、坂本君。」

「俺達に行くべき場所があるんだ！ 邪魔はさせない。」

「人間は帰る場所さえあればいい。」

「吐露話、邪魔をするな。」

「悪いが、香戸留の為だ。全てを消滅させる。」

「正義は俺が決める！」

「五飛か！」

「一度、お前と戦ってみたかった。」

「明久、雄二、逝け、逝って未来を掴んでこい！」

「雄二！」

「ぐわあああああ。明久、俺達の未来、貴様に託す！」

「僕は生き残る！」

「待つのだじゃ！ 明久。」

「ごめん、秀吉。僕はこういう小細工無しで秀吉と結婚したいんだ！」

「分かったのじゃ、明久、助太刀いたす。」

「五飛、トレーズとブントはもういない、お前は奴等を倒したんだ！」

「違う！ 俺と奴等は決着をつけていない。」

「だから、かつての仲間を……」

「キンコーンカーコーン。」

「オリエンテーション終了！」

第53問 男子と女子とチケット争奪戦。(後書き)

終わらせ方が無茶苦茶ですみません。次からは清涼祭です。

第54問 僕と野球と学園祭。（前書き）

INFINITE・W様、ご意見ありがとうございます。今回からは清涼祭編です。

台詞が多いので、台詞を減らしてみようと思います。

第54問 僕と野球と学園祭。

第54話

明久side

明日からは清涼祭。いろんなクラスがお化け屋敷とか、喫茶店などの準備をしている。ちなみに僕たちは…

グラウンドで野球をしていた。

「来い、吉井。」

「勝負だ、須川君。」（雄二、サインは？）

（須川の股間にジャイロボールのストレート。）

（それをしていいの？とりあえず、信じよう。）

ビュン！（明久の投げた音）

ドスツ、グシャ！（須川君の大事な物に当たった音）

ドサツ（須川君が倒れる音）

チーン、あれ須川君？何で起きないの？

「吉井ー！」

「あの声は！」

「何をやっとするかー！」

鉄人だ。（雄二、どうする？）

（鉄人の渠にストレート、もしくは、後頭部にスライダー。）

（違うよ、雄二、助かる方法だよ。）

「吉井ー、にがさんぞー！」

side out

緋色side

「あいつら、馬鹿だな。」

「しかたないじゃねえか。馬鹿なんだしな。そろそろ帰ってくるぜ。」

ー

ガラツ（扉が開く音）

ドサツ（鉄人が明久達をおいていく音）

「まだ、出し物が決まってるのは、うちだけだ。早く決めるように。」

第54問 僕と野球と学園祭。（後書き）

少しは台詞が減らせた気がします。

感想、ご意見、ご要望、質問等、お待ちしております。

第55問 明久とFクラスと出し物決め。（前書き）

最近、原作を読んでいないため、おかしい場所があるかもしれません。

第55問 明久とFクラスと出し物決め。

第55話

明久side

「俺達は、野球をするぞ。明久、秀吉、進めてくれ。」

半年前ぐらいまで戦争を緋色達はやっていたから、学園祭について知らないのはわかる。5人以外は驚いていた。当然、僕も。

「雄二、おかしいよ!」

「おかしくないよな、5人とも?」

知らない人に聞いたって無駄だ、バカゴリラ!

「「「「さあ?」」」」

やっぱり、ダメだろ、バカゴリラ。

「明久、ちよいと面かせやあああああ。」

「望むところだ。ちよつと待ってて、準備するから。」

バカゴリラめ、気づいてないのか、こちらには霧島さんという強力な神がいる。

「もしもし、霧島さん? 雄二が秀吉の胸をさわってるよ。」

「今行く。」

「てめえ、卑怯だ」

坂本夫妻退場

「というわけで提案がある人?」

「…写真館」

こいつはやばい。個人的には嬉しいが、秀吉が怖いし、秀吉のああいう姿は独占したいんだ。

「秀吉、こんなバカみたいな意見でも書いといてよ。」

「りよ、了解じゃ。」

やはり、秀吉もいやなんだろうな。

第55問 明久とFクラスと出し物決め。（後書き）

前とくらべて文字はしっかり減らせているのでこんな感じを維持したいです。

引き続き、感想、ご意見、ご要望等お待ちしております。

第56話 清涼祭とバカと出し物決め2（前書き）

秋なのにとても暑い。

たまに投稿し忘れるかもをれません。

第56話 清涼祭とバカと出し物決め2

第56話

明久side

「他には？」

とりあえず、写真館があるが危ない。誰か出してくれ。

「はい。」

「横溝君」

「俺はメイド喫茶と行きたいが、ウェディング喫茶を提案する。」

「秀吉、書いててね。」

「うむ。」

人生の墓場とも言われてる結婚、その衣装を見るだけで悲しくなる人もいるだろう。

「他には？」

「俺は、中華喫茶を提案する。食という…（以下略）」

長い。どのくらいかと言うと、30分続いた。

「とりあえず、この辺で確認を。」

僕は驚いた。何故かという（下を参照）

写真館

秘密ののぞき穴

ウェディング喫茶

人生の墓場

中華喫茶

ヨーロッパ

おかしいなー、なぜだろ、バカが書いたみたいだ。

「秀吉、この名前はちよつと。」

「ほう、意外じゃのう、明久は気がつかないと思ってたのじゃが。」

「遠回しにバカっていつてるでしょ。」

彼女にバカ扱いを受ける人って僕ぐらいだろう。

第56話 清涼祭とバカと出し物決め2（後書き）

緋色達は、出し物決めが終わるまで、出番がありません。
申し訳ございません。

第57話 清涼祭とバカと出し物決め3（前書き）

P
V
4
0
0
0
0
達成。今後とも宜しく願います。

第57話 清涼祭とバカと出し物決め3

第57話

ゼクスside

今、西村先生と一緒にFクラスに来ている。そして、出し物候補が、酷すぎた。

「おまえ等、決まったか？」

「はい。」 ほぼ全員の声

「「緋色、デュオ、吐露話、化取留、五飛以外は、最低補修は三倍増やさないとイケないな。」」

side out

明久side

補修三倍？二人を倒して、補修を…「西村先生、召喚許可を。」

「どうする気だ、ゼクス？」

「世界史教師ゼクス・マークスが吉井明久に模擬戦を申し込む。」

「ちょうどいい、貴方を倒し、鉄人を倒す！」

「すばらしい志だ。だが、私の敵ではないな。」

教師 ゼクスマークス

世界史 1089点

生徒 吉井明久

世界史 163点

「なにいいいい！」

「だが、そつちは慣れてないはず。」

「甘い。」

ゼクスマークス

1089点

吉井明久

0点

「ゼクス、任せた。私はこのバカに補修させにいく。」

「という訳だ。おまえ等は設備を売り上げを使って上げようとは思わないのか？」

確かにその手があった。

でも、今から僕は鉄拳フルコースを食らうからしばらく関係ない。

第57話 清涼祭とバカと出し物決め3（後書き）

次回、出し物決め、終了予定。テストの成績が悪いため、下手したら、一ヶ月ぐらい投稿できないかもしれません。

第58話 清涼祭と転校と出し物決め（前書き）

テストがとても悪かったです。没収されるかもしれません。がよろしくお願いします。

第58話 清涼祭と転校と出し物決め

第58話

緋色side

「その手があつた!」

気づかないおまえ達はすごいな。

「多数決をとるぞ。」

雄二が起きている。寝てたはずだが。

「写真館がいい奴。次がいい奴。最後のがいい奴。」

早いな。

「誰も挙げなかったから中華喫茶にする。協力しろよ。しない奴は使い捨て人型装甲板になる」

さりげなく酷いことをいうな。

「雄二。」

「さらば。」

すごい早いな。是楠のツールギス並か。

「生き延びたー!」

「あの吉井君、木下さん、緋色君、少しよろしいでしょうか?」

「別に。」

「別にかまわぬが。」

「単刀直入にいうと美波ちゃんこ転校するかもしれないんです。」

side out

明久side

美波がいなくなると…

明久の回想

・美波がいなくなると暴力が減る〓平和

・清涼祭?が一つ減る〓暑苦しい〓姫路さんを巡って乱闘が起きる

〓秀吉が巻き込まれる〓迷惑だ

回想終了

「それは大変だ！」

「でも何故俺達に聞く？ 親の事情ならしかたないだろ。」
「確かにそうだ。一体何が？」

「それは……」

第58話 清涼祭と転校と出し物決め（後書き）

微妙な所で終わらせてすみません。次回は雄二の捕獲の所です。感想、要望等お待ちしております。

第59話 清涼祭と転校と捕獲大作戦（前書き）

ペースが結構遅いので、大会までだいぶかかると思います。

第59話 清涼祭と転校と捕獲大作戦

明久side

「実は、美波ちゃんの転校の理由は…」

「この教室の環境とかが問題なんだろう？」

「デュオ君！聞いてたんですか？」

「俺も混ぜるよ。」

「今度は、ミスるなよ。」

ミス？何があつたんだ？

プルルルル！

僕の携帯が鳴っている、相手は…

雄二だ！よっしゃきた！

「もしもし、明久、鞆を頼む、それか俺をたすてけくれ。やめろ、

翔子、ベルトを…」

たすてけ？

「「ぶわっあっはっは！」」

「聞いたか、緋色、明久、たすてけだつてよ。」

今の録音したいな！。傑作だよ。

「雄二は最後にベルトがいったが何があつたんだ？」

「緋色、デュオ、雄二を捕まえにいこう。」

「「雄二の苦しむ姿を近くでみたいから。」」

「だが、場所はわかるのか？」

そのくらい簡単さ。雄二は男子がいないところに隠れるに決まっている。

女子更衣室

「雄二、奇遇だね。」

「何があつたら、此处で会つんだ？」

ガチャッ

ドアの音がした。その先は…

第59話 清涼祭と転校と捕獲大作戦（後書き）

睡魔に負けなければ、もう1話いこうと思います。

第60話 清涼祭と覗きと逃走大作戦（前書き）

僕と親友と召喚獣にユニークアクセスが抜かれてしまいました。両方自分の作品ですけどね。

第60話 清涼祭と覗きと逃走大作戦

緋色 side

「緋色？」

優子？

「何しに此処にきたの？」

「ここはごまかすしか…」

「お前の体操服姿を見に来たんだ。」

「しまった。やばい、嘘ついたのがばれるより…」

「緋色ったら、家でならどんな格好でもしてあげるのに。」

「やめてくれ、明久達の前で」

「先生、覗きです。吉井君と坂本君が。」

「やばいな、俺もでるか。」

「優子、また放課後に。」

「うん、後で」

デユオはばれずに済んだみたいだ。

教室

10分後

二人が帰ってきた。

「やはりその理由は…」

「三つあるな。」

吐露和が乱入してくる。

「吐露和、協力してくれるのか？」

「クラスメイト達は俺達で済ませる。」

召喚大会だったか？あれで優勝すればいいしな。

「一つ目は中華喫茶を成功させればいい。」

「もう一つは、学園長に直訴すればいいさ。」

「緋色、明久、任せた。」

俺は優子と帰るか。

第60話 清涼祭と覗きと逃走大作戦（後書き）

アンケートをとろうと思います。

一つ目は五飛の恋人

誰かいるなら、相手の名前をいらないならなしと答えて下さい。

二つ目は召喚大会優勝者です。

協力してくれるとありがたいです。期間は13日までになりたいと思います。

第61話 清涼祭と設備と妖怪ババア（前書き）

最近、退屈で寝てばかりです。勉強はやる気がないので。

第61話 清涼祭と設備と妖怪ババア

明久side

僕は雄二と学園長室前にいる。理由は前回話してた気がする。

ガチャ（僕がドアをあける音）

失礼しまーす（僕と雄二の声）

ニヤ（ババアと鉄人がニヤケル効果音）

ザザッ（僕らが引き下がる音）

ガシッ（鉄人に捕獲された音）

チッ（教頭の舌打ち音）

「貴方の引き金ですか？学園長。西村先生も呼んで。」

「とつと失せな、髪分け方が犯罪物なやつに嫌みを言われる筋合いはないからさ。」

この人、やつぱり変態だ。9・5巻に詳細は…

「明久、宣伝はやめろ。」

なぜ、心の声が。

「用件はなんだい？クソジャリ。まず、名を名乗ってからにしな。」

「俺は坂本雄二、こいつが地球圏のバカ代表です。」

「原作より扱い酷くない？」

「メタ発言はやめな、クソガキ、あんたには礼儀がないのかい？用件をいいな」

「教室の環境を改z…」

「却下d」

「今の教室は戦争があった後、またはあんたの脳味噌なみに酷く、あんたやガンダムのパイロットじゃなきゃ生きていけねえ。」

「こちらの条件にのつたらかんがえてやるさね。」

「条件は？」

「大会の優勝さね。チケットの回収をしてほしくてね。」

「「チケットー？」」

僕と雄二の目が胡麻になった。

第61話 清涼祭と設備と妖怪ババア（後書き）

せりふが次も多くなると思います。理解ください。

第62話 清涼祭と設備と妖怪ババア2（前書き）

昨日は投稿できずすみません。悪いのですが、小説は18日まで休ませていただきます。理由は18日が体育大会だからです。ご理解をお願いします。

第62話 清涼祭と設備と妖怪ババア2

明久side

「で、なぜ、チケットなんです?」

「あんたらは如月ハイランドが副賞に出るのは知ってるかい?」
ふーん、知らないや。

「「知らん。」」

「そこで、良からぬ噂を聞いてね、」
噂?何だろ?

「あちらは、幸せの為のジnkスを作ろうとしていてさ……」
別に良いじゃないか。

「強制的に、結婚までプロデュースしようとしてるのさ。」

「「なんだってー!」」

やばい、秀吉達が絶対参加してくる。カトルやムツリー二も。

「雄二!」「明久!」

「絶対に勝つぞ!」

「引き受けてくれるのかい?」

「「もちろん。」」

僕たちは未来が掛かっているから、断る理由がない。

「明久は帰っていていいぞ。」

なぜ、僕を捨てるんだろ?

「お前は外で待機しとけ。」

この後、秀吉と一緒に帰った。

side out

優子side

「ねえ、緋色、お願いがあるんだけど。」

「何だ?」

かれはあたしの彼氏の緋色、無愛想だけど優しいから好きなんだけ

ど、それは置いといて、

「一緒に試験召喚大会にd」

「今日の夕飯は何が良い？」

話逸らしてきた。

「なんで嫌がるの？」

あたしって嫌われてるのかな？

「おいデユオ。」

「なんだ緋色？」

第62話 清涼祭と設備と妖怪ババア2（後書き）

今回は優子の扱いが酷くすみません。かならず、この罪は償いますから。

第一回バカテスト（前書き）

タイトルを変更しました。理由は、話とタイトルが違う気がしたからです。そして、明日、体育大会の予定でしたが、延期になりました。すみませんが、21日までまってください。明日ぐらいは投稿します。

第一回バカテスト

第一問

十二月二十四日に起きた戦争は何か、答えなさい。

緋色、デュオの解答

EVE WARS

ゼクスのコメント

貴様等には簡単すぎたか。

吉井明久の解答

サンタクロース争奪戦

ゼクスのコメント

少しお話があるから補修室に来なさい。

吉井明久の返答

いやです。

ゼクスの返答

なら、潰しにいく

第二問

光は波であつて（ ）である。（ ）にあてはまる言葉をいれなさい。

緋色、デュオ、吐露話、カトル、五飛の答え
粒子

ノインのコメント

簡単すぎるな。間違える奴はいないだろう。

土屋康太の答え

寄せてあげるのである

ノインのコメント

いったい何が言いたい？

吉井明久の答え

ビームサーベル

ノインのコメント

戦争はとっくに終わっている。そのような物は忘れる。

第一回バカテスト（後書き）

バカテスト書いてみましたが、どうだったでしょうか？

テストが悪かったので更新が体育大会後は遅れるかもしれません。

ちなみに44番でした。111人中です。テスト勉強はちゃんとするべきと思いました。

第63話 バカと大会と学園祭（前書き）

更新できずすみませんでした。明日も中止なんですが、連載を再会させようと思います。

第63話 バカと大会と学園祭

緋色 side

結果的に優子と大会に出ることになった。そして今、優子とかと登校中。

「緋色も大会でるの?」

こいつもたぶんやられただろう。

「ああ。お前は秀吉とか?」

とりあえず情報収集だ。

「いや、雄二とだよ。」

いわゆる同姓愛者というやつか。優子の好きな。

「失礼な。君は転校の話を忘れたのか?」

ああ、そういうばさういうことが…

「絶対忘れてたよね。」

学校に着いてしまった。優子と別れ、教室に向かう。

「なかなかだな。」

教室の装飾が。

「雄二はやる気をだしたらすごいからね。」

それは賛同するな。

「とりあえず、優勝は俺達がする。」

挑発を…

「僕達こ優勝しないと…」

「学園が潰れるかもしれないのは知っている。」

明久がとても驚いてる。キモイぐらいに。

「代表さんよー、接客はどうすんだ?」

こいつは意外にもこういう才能がある。

「お前のあの、励ます時の感じじゃないのか?」

あれはすごいしな。

「確かにデュオはホストクラブの店員並の接客技術があるからな。」

五飛の一言に俺、カトル、吐露話が頷く。
もう少しで一回戦だな。優子を迎えにでもいくか。

第63話 バカと大会と学園祭（後書き）

デュオの接客については、ボイスカセット新機動戦記ガンダムWを聞いてみればわかります。

緋「宣伝はしないほうがいいと思うが。」
そのとおりです。次回一回戦スタート

第63話 大会と学園祭と一回戦（前書き）

明日が体育大会の為、短めに行こうと思います。

第63話 大会と学園祭と一回戦

緋色 side

一回戦の相手はモブキャラになっている。教科は国語だ。

緋色 421点

優子 368点

VS

31F組1 20点

31F組2 30点

こいつら社会で生きていけるのだろうか？

「優子、任せた。」

優子が驚いてる。おかしいことを言ったのだろうか？

「別に良いけど、何で？」

「単なる準備運動だ。」

優子は納得しているが敵が理解してない。

ブスッ バタッ。

一体倒れた。

「。。。の仇ー！」

名前すらないとは意外だな。

ザッ、ブスッ、バン、ヒュー、ドガン。

もう一体が真ん中に大きな穴を開けて、散った。

「勝者、緋色、木下ペア。」

観客が可愛そうな目で負けた二人を見ている。

「優子、後で、喫茶店に来るからな。」

「待ってるわ、緋色。」

優子と別れ、教室に戻った。

第64話 大会と学園祭と変態コンピ（前書き）

体育大会終了しました。また、前の時みたいに更新出来ると思います。

第64話 大会と学園祭と変態コンビ

緋色 side

教室に戻ったら、迷惑なキャラが二つあった。

「汚えなー、こんなところでぎゃああああー！」

デュオが坊主を殴った。サイズでだが。

もう片方は確か……

「秀吉、あのソフトモヒカンにお主なんか大っ嫌いじゃ！馬に蹴られて、刀に刺されて、地獄より下に墜ちるのじゃと言ってこい。」

「承知。」

秀吉がソフトモヒカン（以下ソフモヒ）にあの台詞を吐いてきた。そしたら、ソフモヒの頭から白い奴が出てきて、のの書取を始めた。そしてデュオと雄二がビデオカメラで録画している。

ハゲの方が動き出しました。

「緋色、殺っていいぞ。」

客がいるのに、それは無理だ。

「その天然ハゲの方。この人は緋色由比だぞ。」
ざわざわと周りが騒ぎだす。

「デュオ、やっていいぞ。」

彼奴ヤルキあるぞ。

「お客さん、どいたほうがいいですよ。」

デュオが忠告する。そしてビームサイズを構える

「おらおらああ、死神様のお通りだあー！」

といってハゲのベルトが切れる。そしてそのパンツ丸だしハゲを雄二とムッツリーニが撮影している。

「おまえ等、覚えとけよ。」

あくにんの台詞を言いつつ、もう一人を連れて運ぶ。おもいつきり悪党みたいだな。

第65話 大会と学園祭と二回戦（前書き）

PV60000、ユニーク6000達成。こんな駄文を読んでもだ
さりありがとうございます。これからも宜しくお願いします。

第65話 大会と学園祭と二回戦

緋色 side

俺達はまたモブキャラだったから瞬殺してきた。なので雄二達の二回戦を見に来た。

「おい、その根本の彼女、これを見たくないか？」

あれは…、根本の女装写真集。あのクラス全員が悲鳴を挙げたあいつの写真集だ。優子が見る気まんまんだな。

「緋色、あれって何なの？」

やはりそう来たか。

「根本の女装写真集だ。」

優子がフラフラしだした。名前挙げただけで気絶されるなんて凄い奴だな。ある意味だが。
ドサッ

優子が倒れた。保健室に運ぶか。

side out

優子 side

あれ、あたしは…？、確か会場にいたはずじゃ…。緋色が心配そうにこちらを見ていた。

「起きたか、優子。」

やっぱり倒れたんだ。

「ああ、今は二日目の朝だから、半日寝ていたな。」

半日も？まさか…

「緋色、ずっと居てくれたの？」

「やはり家の方が落ち着いたか？」

正直そうだけど緋色は大丈夫だろうか？

「緋色、寝てないんでしょ？あたしが膝枕してあげるから寝なさい。」

「一日程度、問題ない。」

そっか、兵士だもんね。

「なら、お前と家で過ごすか。」

それってサボリだよね？

「大丈夫だ、許可はある。」

え？

私は驚いた。

第65話 大会と学園祭と二回戦（後書き）

召喚大会を楽しみにしてた方はすみません。これで一応、清涼祭は終わりです。この後はオリ話です。

第66話 学園祭とサボりとデート（前書き）

いきなりオリ話に入りますが、打ち上げには参加する予定です。

第6話 学園祭とサボりとデート

優子 side

「誰の許可を取ったの？」

学校行事をサボる許可なんて普通貰えない。たとえ、人が倒れても。

「学園長…じゃなくて妖怪大王クソババアだ。」

クラスメートの影響かしら？

「ちなみにどうやって？」

緋色は説得とか得意そうじゃないからね。

「学園長にバスターライフルを構えて、ビームサーベルを心臓付近に構えただけだ。」

下手すると殺人だわよね？

「ところで、どうするの？」

気になる疑問を一つ。

「学校にハッキングするのもいいが、どこか行くか？」

これってデートだわよね？

「如月グランドパークはどう？」

ウエディング体験があるから。

「リリーナの見舞いにでも行くか。」

えっ！デートじゃないの？

「たまには顔を出さないとな。」

どっちが大事なんだろ？

「大丈夫だ、ずっとはいないさ。そのあと如月グランドパーク以外のところに行くから。」

なんだ、良かった。

「早く行こう、緋色。」

「久しぶりにリリーナにあいたいみたいだな。」

こういう時だけ、緋色は鈍いんだから。

「軽く救急車あたりを取ってくる。」

「待ちなさい、緋色。バスで行きましょう。」
ジャックなんかしたら大変なことになるから。
あたし達はバスで病院に向かった

第66話 学園祭とサボリとデート（後書き）

リリーナ久々の登場予定。

最近、ガンダム無双3にはまっていて、ヒロが手に入らなくて、ヒロの育成ができない状態です。一番はミリアルドとエピオンがいいですけど。

感想等お待ちしております。

第67話 学園祭とサボりとリリーナ（前書き）

最近、自分の奴を読みますが、とても酷かったと思います。今もですが。今は前よりは良くなってると思うので。

第67話 学園祭とサボリとリリーナ

病院

リリーナside

最近、緋色が見舞いに来てくれない。どうしたんだろうか？まさか

…彼女が。

居るわけがない。

「入るぞ、リリーナ。」

緋色だわ。理由を聞いてみましょう。

「緋色、どうして、見舞いに…、あら、その子は？」

緋色の後ろに女子がいた。まさか、拉致した？いや、なら重要なのかしら？

「優子か？ああ、前も一回会っただろう？」

確かに会いましたけど…

「あたしは緋色の婚約者の木下優子です。」

自分の耳を疑ってしまう。デュオ君達なら笑いこけそうだ。

「リリーナ、どうかしたか？」

なんでここだけ鈍いんでしょうか？

「ところで、今日は学校の行事じゃなくて？」

とりあえず話題を変える。

「優子が俺のせいで倒れたからな、休んだ。」

よほど仲がいいみたい。

「優子さんでしたっけ？緋色はちゃんと生活出来てますか？」

ガブリエルの時は一応大丈夫でしたけど。

「一応問題ありません。」

一応？理由も聞こう。

「優子、俺は問題起こしたりしてないが。」

「学園長に武器を使って脅迫したのは？」

「あらあら、緋色ったら変わりません事。」

「悪い、リリーナ、そろそろ帰らせて貰う。」

「ええ、また今度」

こうして病室を後にした

第68話 学園祭とサボりと召喚大会（前書き）

最近、雨、多いですね！。
個人的に迷惑です。

第68話 学園祭とサボりと召喚大会

緋色 side

「緋色、何処に行くの？」

「学校にでも行くか、客として。」

行くところないからな。

「お前も思いでが欲しいだろ？」

「そうね、行きましょ緋色。」

俺達は学校に向かった。

中華喫茶ヨーロッパピアンという矛盾した名前の店に来た。

「いらっしゃ…姉上に緋色、何をしてるのじゃ？」

秀吉が聞いてくる。

「ちゃんと許可はあるわ。」

「気にするな、単なる客だ。お前の劇はその程度か、トレースの舞台の方が面白かったな。」

近くから明久が殴り掛かろうとする。だが…

「お前はほんとに単純だな。」

避けるかどうかするに決まってる。

「早く、秀吉に謝れ！」

「明久、何を言ってるのじゃ？」

確かに。

「緋色が秀吉の事を…」

「おう、緋色。休みじゃないのか？」

皆の疑問を雄二が質問してくる。

「暇だったしな。そういえば昨日のメールの内容について詳しく聞かせてくれ。」

優子が？を浮かべてる

「明久が女装…失礼、アキちゃん？だったか？何があった？」

「吉井君、目覚めたの？」

確かに自分の妹の夫が女装趣味だったら…。

「大会はどうだ？」

「優勝したよ。」

「優勝おめでとう。」

優子と共に祝った。

第68話 学園祭とサボりと召喚大会（後書き）

とりあえず、後夜祭をして三巻に移ろうと思います。

第68話 学園祭と後夜祭とオレンジジュース（前書き）

来月にフローズンディアドロップ4巻と敗者達の栄光二巻が発売予定。

緋色「おい、宣伝はやめておけと言ったはずだ。」
気にせず後夜祭スタートです。

第68話 学園祭と後夜祭とオレンジジュース

緋色 side

今、俺は後夜祭に来ている。

理由は優子も自分のクラスの後夜祭に行っていて暇だからな。

「それでは、かんぱーい！」

デュオがなんかはしゃいでる。

「デュオ、シャンパンは飲んじゃだめだよ。」

カトルもいた。

「カトル、今日ぐらいいいじゃないか。」

吐露和も珍しく反対しない。

「というより貴様等はいつも飲んでるだろう？」

五飛が暴露した。お前にそんなこと言われる筋合いはないがな。

「なにこれ？ああ、お酒か。」

明久はもう抵抗がないみたいだ。

「明久、なんか慣れてるみたいだな。」

雄二が聞く。

「そりゃ、先生や緋色達と飲んでるからね。」

決して一般の学生が誇れる物ではない。

プルプルプル

携帯が鳴っている。俺のだが。相手は工藤愛子？

彼奴とは関わりが無かった気が。

「もしもし緋色君？ちよつと来てくれない？」

優子に何かあったみたいだ。

「なにがあつた？」

酔っぱらったぐらいだろ。

「緋色がいないと泣き出してさ。連れて帰ってくれない？親が気にすると思うから。」

優子の親は気にしないと思うが。

「カトルも連れてくるから待ってる。」

「うん。」

なんか喜んでたな。

この後、カトルをつれて優子達の所に向かった

第68話 学園祭と後夜祭とオレンジジュース（後書き）

番外1話じゃ終わらない物なんですネ。この後は強化合宿の前に如月ハイランドを書く予定です。

第69話 学園祭と後夜祭とオレンジジュース2（前書き）

久々の更新です。今までよりも悪化してるかもしれません。

第69話 学園祭と後夜祭とオレンジジュース2

緋色 side

優子を迎えに来たのはいいのだが…

近くに酒が置いてある。たぶん酔ったんだろう。

「ひーろ、会いたかったぁ」

いつもと違うな。異常なままに。

「優子、おまえが寝る前に帰るぞ。風邪など引いてほしくないからな。」

「…………… z z z」

もう寝たのか。しかたない。連れて帰るか。カトル達はイチャついてるからじゃまをしないようにするか。

帰り道

優子は意外にも重かった。久々だしな。

「ひーろー、足と首、どっちの関節がいい？」

乙女心とでもいうのか？トロワは女は傷づきやすいとかいってたしな。

「落ち着け、優子。起きたなら、降ろしていいか？」

あまり重い物とか持たないしな。対MS砲ぐらいしか。

「ひーろの背中が暖かいからやだ。」

学校生活と私生活の差が激しいな。

明久にチケットの処分について聞くか。

「おい、明久？如月ハイランドのチケットはどうした？」

「賞品は僕が、オリエンテーションは雄二が…」

やばい、これは、

「俺達は、チエックメイトだ。」

絶対雄二は優子達に渡してる。

「明久、それは霧島に渡せ。道連れを増やすぞ。」

「緋色も僕らみたいに染まってる…」

ブチッ

「優子、寝るか？」

こうして清涼祭は終わった

第69話 学園祭と後夜祭とオレンジジュース2（後書き）

次回からハイランドに行きます。残りの一枚は…。
いったい誰の手に。

感想等を送ってくれと嬉しいです。

第70話 俺らと彼女と如月グランドパーク（前書き）

清涼祭の最後が雑ですみませんでした。

第70話 俺らと彼女と如月グランドパーク

緋色 side

「もしもし？」

誰からだ？迷惑な。

「キサマヲチマツリにアゲテミナデシヨケイシテヤル！」

朝から物騒だ。

ブチッ。切れたみたいだ。

プルプルプル。今度は誰だ？

「なんだ明久か。どうした？」

今日のことだろ。きつと。

「デユオ達は来ないの？」

「たぶん、スタッフになつてるはずだ。切るぞ。」

早く済ませるか。

「緋色、如月ぐら「分かった。行くぞ。「いいの？」

未来は変わらないしな。

「明久や雄二達も来るらしいが。」

「なら早く行きましょ」

こんな優子、久々だな。

俺達は如月グランドパークに向かった。

side out

明久 side

「明久、きょ…「一緒に行こう。「ありがとなのじゃ」

雄二達がうらぎりませんように。

そつえば道が分からない。まあ、いつか。緋色達も来るみたいだしね。

「緋色、一緒に行かない？」

「道が…」

「バカだな。お前の家の前で待つてるぞ。」

早っ！まさか分かってたなんて。秀吉とは初めてのデートな気がする。
たっのしみだな〜♪

第70話 俺らと彼女と如月グランドパーク（後書き）

次回は雄二達の朝ともう一組のカップルについて（の予定。）

第71話 俺らと彼女と如月グランドパーク2

雄二side

カーテンから差し込む光やらで俺は目覚めた。

「雄二、おはよう、今日はいい天気。」

ベットの脇に翔子がいる。

今日は休日の為、制服ではないようだ。

「改めて、翔子、おはよう。」

「…うん、おはよう雄二。」

なぜ、翔子がいるんだ？約束は…してない。なら。

俺は携帯をと…ろうとしたが翔子に捕られる。理由でも聞くか。

「今日はどうしたんだ？」

いつもなら襲ってくるはずだ。

「…約束、如月グランドパーク。」

なぜ、翔子がそれを？

「優しい人達がくれた。」

ちっ、あいつら気づきやがったか。木下姉か、秀吉、大島に渡したのが読まれてたか。とりあえず、二人に死刑宣告でも送っとくか。

「…雄二、行こう？」

明久達も道連れだしな。運動代わりに行くか。

「分かった。下で待っててくれ。」

とりあえず死刑宣告もこれでできる

「…分かった。20分以内に来なかったら、子供をつくる。」

いろいろ飛びすぎだろ。

とりあえず、早く行くか。

明久達も来るだろうし。地獄へは俺達みんなで行くのが、友達だしな。異端審問会がいなけりゃいいがな。

第71話 俺らと彼女と如月グランドパーク2（後書き）

残り1カップルは平賀×大島ペアです。詳しくは二期の12話あたりをどうぞ。

第72話 俺らと彼女と如月グランドパーク3

緋色side

今、6人で如月グランドパークの入り口まで来ている。

「帰ろうか。」×3

「帰さない。」×3

優子が最近、強くなってる気が…

「ねえ、あれ、平賀君達じゃない？」

あー、Dの代表か何かの。

「ちつ、なんてうらやましいんだ！」

お前も似た状況だな。

「いらっしやーい、如月グランドパークへようこそー。」「デユ

オだろ？何してんだ？」

なら残りのメンバーも…

「お客さーん、何言ってるんだい、俺は、二重奏精霊王、通称ファザ
ーだぜ。デユオ…なんて知りません。」

中二病的な名前だな。あだ名の由来分らないし。

「お客様、失礼しました。チケットをお見せください。」

雄二が六人分をだす。

「「「それ、使えないの？」」」

女子勢が動き出したか。

「いえ、大丈夫です。こちら、道化師、茄托、作戦開始だ。」

吐露和はサーカスにいたしな。

「では、カップル別に写真を撮ろうと思うので、並んでください。」
カメラマンなんていないが…

サッ

あれはムツッリー二だな。

「翔子、すまない。」

「ごめん、秀吉。」

みえないくらいまで明久と雄二が彼女のスカートを上げる。
そしてカメラマンが鼻血をだして倒れた。

第72話 俺らと彼女と如月グランドパーク3（後書き）

緋「そういや、なんであと一組が平賀達なんだ？」

ちようど二期みたら、肝試し編で出てきたカップルだったので使ってみました。

緋「まだ、見てない読者に謝れ。」

ネタバレしてしまい、すみません。

感想等、お待ちしております。

第73話 俺らと彼女と如月グランドパーク4

緋色 side

カメラマンは鼻血をだしつつ、シャッターを切っていた。

「どうやら、本質は隠せないみたいだな、ムツリーニ。」

雄二と声は何故か揃った。

「続きはベッドで。」

おかしい方にとんでるな。絶対。

「やらないよ。秀吉の下着には興味あるけど。」

お前の今の行動を公然猥褻というはずだ。雄二は…

「やらねえよ。お前の下着になんか興味ない。」

これは正解だな。

メシメシメシイ！

「ぐわあああああああ！」

雄二の頭蓋骨が大変なことになった（笑）。

「緋色は気にならないの？」

なぜだ優子。俺は交番には行きたくないんだが。ここは、適当に。

「気にならないといえば嘘になるが見せびらかす物じゃないと俺は思う。」

「写真をとるのでお互い手を握りあってください。」

俺は優子と手を繋ぐ。

特殊加工が何か知らないが、優子に任せておこう。

「よし、行こうぜ。」

何に乗るかなんて知らないから雄二に任せるべきか。

「何処に行く？翔子。」

任せた俺がバカだった。

「フィーがとつても×3面白いアトラクションを紹介するよ。」

桃色の髪の毛がはみでてる狐がいた。中身はおそらく…

「姫路さんだな（だね）。」×3

第73話 俺らと彼女と如月グランドパーク4（後書き）

次回から平賀カップルと合流予定です。感想等を待ってます。

第74話 俺らと彼女と如月グランドパーク5（前書き）

久々にアクセス数確認したら、70000pv7000ユニーク超えていました。こんな駄文を読んでいただきありがとうございます。今後ともよろしく願います。

第74話 俺らと彼女と如月グランドパーク5

雄二side

声も変えないとは…

「「おまえのオススメは？」」

この答えの施設に罠がある。

「フィーのオススメはおばk」

「平賀達と合流するか。」

翔子に何か吹き込まれたら大変だしな。あれは？根本？あいつもか！

「散開！」

平賀達の所まで行くぞ！

こついう時こそアイコンタクト。とても便利だな。

「「平賀ー！」」

緋色が珍しく叫んでいる。

「どうした？坂本君、吉井君、緋色君。」

「どうせなら、一緒に行動しないか？というより、行動しろ。」

味方は多い方がいい。

「いいよね？大島さん。」

「平賀君がいいならいいけど。」

「すまないな、大島。だが、平賀はたぶん襲われる。俺達と同じでな。」

「どういう意味だい？」

「女子と仲がいい奴は殺される。」

俺は違うと思うが…

「それに根本が参加していた。」

「見つけた。お化け屋敷に行く。」×3

地獄からの使者が着たか。

「平賀達も連れていっていいか？」

「うん。」×3

理解が早くて助かる。

「じゃあ、行くか、お化け屋敷（地獄）へ。」

「うん。」×4

「本音が聞こえたぞ」×2

こうして俺達はお化け屋敷に入った。

第74話 俺らと彼女と如月グランドパーク5（後書き）

次回からお化け屋敷に入りまーす。

第75話 俺らと彼女と如月グランドパーク6（前書き）

今、テスト期間中。まだ、前の結果は見せてません。酷かったんで火曜あたりから更新出来なくなると思います。

第75話 俺らと彼女と如月グランドパーク6

緋色 side

「結構雰囲気でてるな。」

「こんなものか。」

「病院に墓があるのが気になるが。」

「何か出てくるな。」

「大島さん、大丈夫だよ、君は僕が守り抜く。」

「平賀君、ありがとう。」

これがデュオがいつてるバカップルという奴か？

「…雄二、k「嘘言うな。」「嘘じゃない。」

「…じのほ…きだな…きいし。」×4

この声は…

「姫路の方が好みかな、胸が大きいし。」×4

俺達男性陣の声がああスピーカーあたりから聞こえるな。

「浮気は死んでも許さない。」×4

平賀の彼女も落ちたか。

「おお、翔子、何か出てきたぞ。」

でてきたのは…釘バット、ティーンソー、斧、鎌等々様々だった。

「死んでたまるかー！」×4

「おらおらー、死神様の御通りだー！」

デュオがいたのか。

「さあ、異端審問会の皆様がんばってね。」

「あいつらをころせー！」×四十人近く

この後、優子達と異端審問会に一時追われるはめになった。

「結婚したくなりましたか？」

なるわけがない。

「カップルが窮地に立たされると愛が深くなる、ときいてますが。

まあ、次はディナーがあります。」

俺達はファザー？についていった。

第76話 俺らと彼女と如月グランドパーク7（前書き）

久々の投稿です。遅れてくすいません。テスト期間だったので投稿出来ませんでした。

第76話 俺らと彼女と如月グランドパーク7

緋色side

そろそろ昼飯か。ファザー（笑）についていく。

「これから豪華ディナーが用意しています。」

ディナー？夕食か？昼だよな。

「…あ」

「どうした？翔子。」

「…いや、何でもない。」

移動中

「みなさん、お集まりいただきありがとうございます。」カトルま
でいたか。

「この中には結婚を前提におつきあいしている、高校生のバカップルが四組います。」

バカップル？四組？三組じゃないのか？

「というわけで第一回ウェディング体験を手に入れるのか誰か、クイズ対決ー！」

「イエー」

誰だ、ノリノリの奴は。

「第一問、結婚記念日はいつでしょうか？」

何故だ、意味が分からない。ピンポン！×4

何故分かる！

「私達に愛がある限り、常に結婚記念日。」×4

やめろ、自爆して今のせりふを聞いた奴を俺達もろとも灰にしたい。
「正解です。」

「おかしいだろ！あとやめてくれ、恥ずかしすぎる。」×4
満場一致だ。似たもの同士ということか。これは俗に言う出来レース？というやつか？

もし、そうなら、四組用意してないはず。

生き残るのは
…この俺だ！

第77話 俺らと彼女と如月グランドパーク8（前書き）

ディオディシムを最近やり始めているんですが、セフィロスのフォースフォームがとてもしっかりとよくて、虐殺を行っています。一秒殺しとか。

まあ、どうでもいいと思うので本文に入りましょう。

第77話 俺らと彼女と如月グランドパーク8

緋色side

出来レースなら、手を出さないべきか。

「第二問、結婚式が行われるのは何処でしょうか？」

これぐらいなら雄二は乗るだろう。

ピンポン！

雄二、がんばれ。

「ローストビーフ味のポテトチップス定価126円！」

この返しは以外だったな。

「正解です！」

何！

「結婚式が行われるのは、朱雀の間、別名ローストビーフ味のポテトチップス定価126円で行われまーす！」

おかしい。客が言い返さないだと、ほとんど生徒なのか？にしても…

「それは明らかに今作っただろうがー！」×4

男性陣がハモる程おかしいというのは理解して欲しい。

「第三問、あなた方の出会いはいつでしょうか？」

これは頂く！

ドン！

これは、後ろからやられたか。雄二以外やられている。油断したな、雄二は目をやられてるし。

「…小学校。」

「正解です。では、第四問、」

これは頂く！

「イヴウォーズまでに99812人。」

これなら…

「正解です。では第五問。…」

「ちよつと待てやー！なんでこんな奴等だけ特別扱いなんだ、俺達

は、御・伽・苦・叉・魔だぞ！ごるあああ！」

「私達もウエディ…」

チンピラ？きんぴら？どちらか知らんが迷惑だな。

第77話 俺らと彼女と如月グランドパーク8（後書き）

最近、お気に入り件数が増えてきてとても嬉しいです。登録してくれている皆様ありがとうございます。
感想やご要望などもお待ちしています。

第78話 俺らと彼女と如月グランドパーク9（前書き）

休日ってとても勉強する気でませんよね。おかげで成績が悪くて困ってます。

第78話 俺らと彼女と如月グランドパーク9

緋色 side

これはチャンスかもな。あいつらなら出来レースは無理だろうからな。

このまま、行けば雄二達になり、俺達は解放される。一時的に。

「問題だぞ！ヨーロッパの首都は何処か答えてみやがれ！」

この問題がでた瞬間沈黙が訪れる。そして俺は気づいた、世の中には下があるものだ。明久よりバカがいたとは…

「正解です！」

「あ？おかしいだろ？」

「ヨーロッパは国でなく州のため、首都はございません。」

あの司会者、ニコニコしてるが、恥をかかせようとしてる。

「一番、正解数が多い坂本夫妻（笑）にはウエディング体験をしてもらいます。」

なぜか笑われてる。

「（笑）とは何だ！あと拒否権はないのか？」

むろん、ない。

「優子、残念だったな。」

とりあえず励ます。

「緋色、負けたからキスして。」

「公然でするわけにはいかないだろ。あと、一度着て、結婚式を迎えるより、初めて着たもので式を迎えた方がいいだろ？」

問題は、皆に聞かれた事か。

「うん、そうするわ。」

客達がおかしな反応を…

「なんとも惜しい。このカップル達も手放したくなかったですねー、まったく惜しい。」

気づいたら、明久達も似たような事になってる。

第78話 俺らと彼女と如月グランドパーク9（後書き）

次回、ウェディング体験に入ります。
感想等お待ちしております。

第79話 俺らと彼女と如月グランドパーク8（前書き）

あと23話ぐらいで如月ハイランド編は終わる予定です。
次は合宿に行こうと思います。

第79話 俺らと彼女と如月グランドパーク8

緋色 side

今、雄二達は衣装に着替えており、関係者達が教会に集まる。俺達も。

「それでは、ウェディング体験を始めようと思います。」

カトルを久々に見た気が…

「新郎様の入場です。紹介はちんぴらの乱入により、時間が遅れているのでしゅりやくします。」

適当だな。

「本音は？」

隣の工藤？が聞く。

「体験だから、紹介したら、本番の楽しみが減るじゃないか。」

嘘つけ。面倒くさいんだろう。次は新婦か。

「続いて、今イベントのメインヒロイン、坂本翔子様の入場です。」

「勝手に入籍させるな！」

雄二、ナイス突っ込み。

「綺麗ね、緋色。私なんかより。」

人それぞれに魅力はそれぞれだしな。

「俺は優子の方がいいが。」

「ありがとう。」

どうやら、二人が真ん中に着いたようだ。

「…私、お嫁さんに見えるかな？」

さあ、どう答える？

「婿には見えないぞ。」

それは酷いと思うが、一種の愛だろ、ツンドラかツンデロか知らないが。

「…嬉しい。私はずっと、雄二のお嫁さんになることが夢だったから。」

「マジ、そういうのいいから、早く進めろ！」

「私たちい、暇じゃないんですけど、お嫁さんが夢？おかしいんじゃないの？」

明久と平賀が殺る気が見える

第79話 俺らと彼女と如月グランドパーク8（後書き）

また、お気に入り登録数が増えました。してくださった方、ありがとうございます。

今後もしよろしくお願いします

第80話 俺らと彼女と如月グランドパーク9

(前書き)

前回の前書きであと23話とか書いてましたが、2、3話の予定で
す。

第80話 俺らと彼女と如月グランドパーク9

緋色side

「待て、二人とも。せつかくの雰囲気を崩すな、後でやりに行くぞ。」

これで二人は落ち着くだろう

「あれ？花嫁さん？皆様花嫁様を知りませんか？できれば皆様も探してください。」

できればか。なら、お言葉に甘えさせて。

「雄二。」

「翔子の事ならパスさせてくれ、便所いきてえ。」
嘘がバレバレだな。

「どうせ、チンピラを潰すつもりなんだろう？俺らが殺ってくるぜー！」

デュオ、カトル、トロワ、五飛が来た。

「カトル、暴走するなよ、二年前みたいに。」

あれは虐殺の体言者だな。

「おっしゃあ、久々の戦闘だな、行くぜ相棒！」

「久々の仕事だな。」

「行くよ、サンド、ロック。」

カトル曰く、右手のショーターがサンド、もう一方がロックらしい。

「正義は俺が決める！」

「緋色由比、出撃する。」

こうして5人で処刑に向かった。

sideout

雄二side

翔子はこのあたりにいた。

「翔子！」

俺は気づくように大きな声で呼ぶ。

「雄二？」

泣きそうな目をした翔子が振り返った。

第80話 俺らと彼女と如月グランドパーク9

(後書き)

妙なところですみません。うまく行けば、次回で終わります。その後、合宿編に行こうと思います。

第81話 俺らと彼女と如月グランドパーク10

(前書き)

今回は、翔子視点です。

第81話 俺らと彼女と如月グランドパーク10

翔子side

「せっかくの体験なんだ。記念品ぐらい、持って帰ってもいいと思うぞ。」

「といって私にヴェールをかぶせてくれた。」

「…雄二、私の夢、変？」

「言っておくが、今までのお前の気持ちは勘違いだ。俺は責任をはたしたにすぎない。長い間、こんな人間に時間をかけさせてすまない。」

「そんなことはない。」

「だが、確かに俺はお前を好きなのかもしれない。しかし、お前の隣におれがいるとお前に迷惑がかかる。そして、ずっと一人の人を思い続けることは胸を張っていいことだ。」

「私の夢は変じゃないみたい。」

「あと、弁当、旨かった。」

「雄二が笑いながら私のバッグを見せる。」

「翔子、もう一回考え直してくれ。もし、本当にいいなら、正式につき合ってやる。」

「私は…」

「雄二！、私はやっぱり何も間違っていなかった。」 この人についていく。何があっても、一生ついていく。これは、あの時から私の夢。

「じゃあ、帰るか。あんま遅いと誤解されるしな。」 「おめでとう、二人とも。」

木から降りてきたのは優子と緋色だった。

「てめえら、隠れてたのか？」

さすが、もと兵士。嘘ではないみたいだ。

「用が済んだし帰るか。」

緋色達の後を私達はついていく

第81話 俺らと彼女と如月グランドパーク10

(後書き)

どうでしたか？次は強化合宿です。
感想等もお待ちしています。

第82話 僕と脅迫と強化合宿（前書き）

やっと3巻に突入。とてもスローという実感があります。気にせず本編に行きましょう。

第82話 僕と脅迫と強化合宿

緋色 side

普通の朝だった。いつも通り、優子と朝を過ごし、明久達と一緒に学校に来た。そこまでは良かった。

明久の靴箱に一通の手紙が届いた。

それは、脅迫状であった。

向こうで明久が騒いでる。内容は知らないが、明久の女装写真が入っ
ていていたのに俺は驚いた。

「明久、目覚めたか。さようならだ。」

慈愛に満ちた目で見送ろうか。

「緋色、助けようとは思わないのかの？」

俺より詳しい奴いるだろ。

「ムツツリー二に訪ねたのか？」

あいつはこういう専門のはずだ。

「そうじゃ、ムツツリー二がおる。明久行こうかの。」

気づいてないとは…

「笑われる！」

それは意外だ。

「この手はムツツリー二が専門じゃろうて。」

「さすがだよ、秀吉。さすがは僕のお嫁さん（予定）だよ。」

秀吉が拗ねてるように見える。

ついていこうか。

「むっ「俺が先だ。」雄二、どうしたの？」

どうせ、将来についてだろ。

「明久が清涼祭の時のアレを録音していた。あいつは機械音痴だから出来る分けない。」

なるほど。

「明久、何をした？」

「雄二にプロポーズ的な事を言ってるフリをさせた。」

「なんだ、お前、前に告白したじゃないか。」

明久が？を浮かべている。

第82話 僕と脅迫と強化合宿（後書き）

感想等を待つてまーす。

第83話 僕と交渉と強化合宿

緋色 side

「緋色、告白って?」

ああ、こいつは先に帰ってたな。

「ところで明久は何の用なんだ?」

逸らした。完全に逸らした。

「えっと、僕の女装写真が全世界に…」

「そんなものはどうでもいい。」

ハモった。よくハモる気がする。

「デュオ、協力してやってくれ。」

近くにいたから巻き込む。

「依頼かい? 緋色?」

「明久の女装写真が全世界に…」

「りょーかい。報酬は?」

もちろん、

「現金だ。明久の。」

やめてくれ、みたいな顔だな、明久。

「だって、今月神ゲーが週一発売なんだよ!」

こいつ、確か、生活が。

「生活改める。」

またハモってしまった。

「じょうだんだよ、明久。その代わりにお前に言っておく。お前の

女装写真、かなり人気あるぜ。」

確かに、分かる… わけない。

「ムツツリー二、僕の宝物一つでいいかな?」

「俺も秘蔵コレクションの一冊で頼む。」

本か? ムツツリー二「エロ

」「ちなみに何の本?」

デュオまでハモるとは…呪われている。

「『エロ本！』」

叫んだ、こいつら。第三者から見たら変質者だな。

「さて、そろそろ時間だな。」

「頼んだよムツツリー。」

暇だしな。手伝うか。

第83話 僕と交渉と強化合宿（後書き）

今回、縦がとても長い気がします。

感想等待ってます。送ってくれると嬉しいです。

第84話 僕とバスと強化合宿（前書き）

今日は退屈な為、早く投稿しました。

第84話 僕とバスと強化合宿

緋色 side

今、バスの中にいる。しかし、いつものメンバーではない。

答えは優子達に拉致された。雄二とカトルと俺が…

「カトル、ゼロシステム使うか？」

ゼロシステム。それはシステムが状況を判断し、直接脳に送り、戦闘力を高めるシステムである。そのおかげでシュミレート結果が脳に送り込まれ、その負担で死んだ人も多い。

「緋色、説明長すぎだよ。後、僕は克服済みだよ。」

そういえば…

「何の話？」

一般市民は知らないしな。

「それを持ってきたりしてないよな？」

雄二、まさか…

「まあ、置いといて、何故俺達を連れてきた？」

「会いたかったから。」

男子の視線がとてつもなく痛い。

「それだけ？」

それだけで拉致るとは伊達じゃない。

「リア充は死ね！」×21

リア充？知らないな。

「そろそろお昼。」

何時間眠ってたのだろうか？

第84話 僕とバスと強化合宿（後書き）

ゼロシステムの簡単な説明をさせて頂きました。ぼちぼちこんな感じなのがあると思います。

第84話 僕とバスと強化合宿2（前書き）

p v 8 0 0 0 0 ユニーク 8 0 0 0 0 達成！よんでくれる方ありがとうございます。
駄文ですがこれからも読んでくれると嬉しいです。

第84話 僕とバスと強化合宿2

緋色side

俺達はAクラスの人たちという。会いただけで拉致された。

「そういえば、優子達って、同棲してるんだよね？」

それが？

「ええ。でもどうしたの？」

確かに…工藤の事だから食事にふさわしくない会話だろうが…

「どこまでいったの？もしかして、子供の名前まで考えたりしてる？」

子供か。遠い未来だな。

「そ、そんな訳ないじゃない。」

考えてたな、絶対。

「「「お薦めは？」」」

なぜ、はもるんだ！

「男の子だったら翔で、女の子だったら佳奈かな？」

両方考えてるだと！

「優子、いつの間に。」

そんな暇ないだろ。

「授業中や休み時間。」

「でも、僕達とお話してるよね。浮気防止とか、色仕掛け等の。」

「同時進行でやってるわ。」

優子の脳内凄そうだ。

「そつか！分かったぞ。」

カトルがいきなり叫ぶ。

「愛子がよく露出度の高い服で来るかが。」

あいつ何やってるんだ。

「よくアウダとかラシードとかにからかわれるけどね。」

ラシード？あのモノアイ部隊の一人だな。

「あいつ生きてたのか？」
死んだのかと思った。

「39人生きてるよ！」

あれ？40じゃ？

ひとりは死んだのだろう。

第84話 僕とバスと強化合宿2（後書き）

マグアナック隊について。

マグアナック隊とは、40体のマグアナックというモビルスーツで形成される。カトルの援護部隊である。39の理由は、途中で一人裏切ったから。ちなみにマグアナックはアラビア語で家族である。知らなくていい知識ですが、一応書いておきました。感想等を送ってくれるとうれしいです。

第85話 僕とバスと強化合宿3

緋色 side

明久達何やってるんだろうか？

「雄二、明久達、何かしてるだろうか？」

「心理テストやった後に飯で姫路の奴を食わされて川をさまよってるあたりじゃないのか？」

こいつ、たぶん頼んどいたのだろう。

「もしもし、デユオだぜー、明久が姫路の料理食って倒れたんだが、どうするべきだ？」

おまえ、知らずに協力してたのか。

「姫路はいろいろな薬品を食べ物に混ぜている。」

「えー！ー！」×5

知らない奴多いな。

「おい、五飛、早まるな、トレースはその川にはいない。」

五飛すら駄目なのか。

「まあ、合宿所が近いみたいだから、そのとき。」

とりあえず忘れよう。

「ありがとう、愛子、君は命の恩人だよ。」

その台詞…

「トロワにも言わなかったか？」

「人生のパートナーが抜けてるぞ。」

雄二め、他人を巻き込む気か。

「いや、まだパートナーはサンドロックだよ。今はショーターだけだ。」

ある意味悲しい人間だな。客観的には。

「え？カトル君はボクをどうでもいいと思って…」
とりあえず

「明久達の迎えが先だな。」

「そのとおりだね。」
スルーしておく。
二人の無事を祈るか。

第85話 僕とバスと強化合宿3（後書き）

バスの中がとても長かったです。やっと入れます。
感想等をお待ちしています。

第86話 僕と川と強化合宿（前書き）

ガンダムW本編に触れてみようと思います。しばらくは用語の説明などです。

今回はガンダムについてです。

ガンダムとは、ガンダニウム合金で作られたモビルスーツを指します。

今回は原作の年号ACです。

第86話 僕と川と強化合宿

明久side

この川は？あ、あの人は教科書に乗ってた、トレーズクシユリナーダだ。隣で話してるのは五飛？何話してるのだろう？

「マリーメイアが世話になったな。すまない。」

マリーメイア？どこかで…

「俺は自分が本当に正しいか確かめたかったただけだ。お前はあの時、死んだよな？」

死んでるはずだ。

「五飛、私は今も生きている。これは、臨死体験だ。」

え？というより、起きなきゃ！

グボラアツ！×2

「やつと目覚めたか。」

あれ？皆どうしたの？

「何やってた明久、五飛。」

トロワが聞いてくる。

「トレーズにあって話をした。奴はまだ生きてるらしい。」

「僕は二人の話を聞いてた。トレーズさんは臨死体験中だったらしい。」

元兵士の四人が驚いてる。

sideout

トレーズside

やはり、臨死体験で五飛と会えるとは。

「どうしたのですか、トレーズ様。」

レディアン。昔からの部下であり、マリーメイアの保護者になってくれた、火消しの金こと、プリペンターゴールドだ。

「懐かしい友にあったよ。川で。」

自分から行ったが、危なかった。

「トレーズ様は教師になるんですね。」

「ああ、懐かしい友達がいる、あの学園へ。」

第86話 僕と川と強化合宿（後書き）

トレーズ復活。無茶苦茶なのは分かってます。でも死ぬには惜しい人なので出しました。感想等お待ちしております。

第87話 覗きと濡れ衣と強化合宿（前書き）

今回は緋色達が地球に降下してきたきっかけにもなった、オペレーションメテオについてです。

この作戦は移住空間コロニーを流星のように地球に落とし、その後ガンダムが地球を制圧する作戦でしたが、緋色達を育てた5人の科学者が作戦内容を変更したため、本来のオペレーションメテオが行われる事は無かった。

長くてすみません。では本編をどうぞ。

第87話 覗きと濡れ衣と強化合宿

緋色 side

トレーズ、生きてたとはな。

それは、いいか。会わないはずだし。

「全員、手を後ろに組んで、動かないで！」

え？とりあえず

「デュオ、こういうときは窓から飛び降りるのと全員を消す、どっちがいいだろうか？」

効率的には後者と思うが、補修送りになるから

「もちろん、窓からだぜ、明久、雄二、ムツツリー二、俺達についてこい！」

女子が驚いてるぞ。その前に何故こうなったんだ？

「ムツツリ、雄二バリア！」

といって女子の前に連れ出す。

「行くぞ明久、隣の奴に話は聞けばいい！」

二人は注意を引き寄せるための餌として使わせてもらった。

「五飛！」

「でやあああ！」

ドラゴンハングナタク版

痛いだろう。

バリッ！

デュオ、突っ込んだか、そろそろだな。

「みんな行くよ。」

カトルの合図で皆窓から飛び降りる。

「あいつらバカすぎでしょ、ここ三階よ！」

「そりゃー、失礼すぎだろ、俺達は普通のクラスじゃないからな！追伸、怒ってばかりだと老化は早くなるぜ、おばさん。」

デュオ、嫌がらせにしか聞こえないが。

第87話 覗きと濡れ衣と強化合宿（後書き）

次回の前書きはヒロユイについてです。

第88話 覗きと濡れ衣と強化合宿2（前書き）

今作主人公のヒロユイは偽名である。本名は不明です。

父は本当のヒロユイを暗殺した、アディンロウという狙撃手。コロニー革命のときに自爆死、母はエージェントだったが、息子を助けようとして炎に包まれ死亡。この二人は紹介するかもしれませんが、本人は最初は任務失敗をしたとき自殺を試みたが、骨折までしか届かなかった。そして力技で骨折を直す技術を身につけた。

第88話 覗きと濡れ衣と強化合宿2

緋色 side

久々だな。高いところから降りたのは。

「雄二、ムツツリー二大丈夫か？」

先ほどドラゴンハングに掴まれたまま飛び降りたしな。

「いてえじゃねえか、五飛。」

そりゃ、戦闘用だし。

「我慢しろじゃないと……」

雄二、逝ってらっしゃい。

「……浮気は許さない。」

「ダッシュ！」×7

ムツツリー二、次はお前だ。

「土屋くん、お話が……」

姫路と後ろのは……

「こーたー、生きる覚悟は？」

冥福を祈る。

「ムツツリー二」×3

次は……

「とりあえず補習受けるか。」×5

鉄人の愛称で呼ばれてる西村宗一さん。三つ目の名が文月の悪夢。

「吉井も観念しろ！」

いや、観念はしてない。

「皆、どうしたのさ？」

分からない君は幸せだな。

補習中

補習後

「こうなったらやってやるっじゃないか。女子風呂をのぞきに行くぞ。」

何があった。

「あ、緋色達、良いところに…」

未来は見えているはずだ！

「断る！」×5

「なんだと！」×3

驚かれるとはこちらが驚く。

第88話 覗きと濡れ衣と強化合宿2（後書き）

お気に入り件数増えました。してくださった方ありがとうございました。

今回はデユオマックスウェルについてです。
感想待ってまーす。

第88話 覗きと濡れ衣と強化合宿2（前書き）

デュオマックスウエル。由来は小さい頃、盗みに働いていてそのリーダーがソロ。これは独奏の意味で、一緒にいるということで二重奏、デュオがついた。マックスウエルは彼が世話になった教会が由来である。ヒルダとは捕まった後に脱走したあとに兵士志望者だったヒルダと出会う。

今作では、原作の雰囲気的に恋人になっています。

第88話 覗きと濡れ衣と強化合宿2

デュオside

まさか、ここまでバカとは思わなかったな、さすがに俺も。

「だめだよ、明久、君は木下さんの裸が…」

カトル、それじゃ緋色が…」

「僕は木下さんの裸になんか興味ないよ。」

「任務了解、ターゲットロックオン。」

やはり。って待て！バスターライフルは処理が大変なんだよ！

「落ち着け、緋色。」

トロワ、ありがとな。

「デュオ、緋色、理由は朝のことに関係してるんだ。」

のぞきと写真がまつたくつながらない。

「朝のこと？」×3

そーいや知らなかったな。

「明久と雄二が脅迫されている。」

どうでるか。

「だが、まったく話が見えない。」

五飛、それは俺達もだ。

「ムツツリー二の情報だと、犯人は尻に火傷があり、自分の事を乙女と言ってるから女子だろ。これで分かったろ？」

答えは、

「断る。眠いし。」×5

最近ハモリすぎだろ俺ら。 「何故、兵士がそんなことを言つべきはずが…」

おまえ、忘れたか？

「俺達は、」↑緋色

「兵士の仮面を取った。」↑トロワ

「つまりなー、」↑俺

「戦いとは無縁なんだよ。」↑カトル。

「いいことを代わりに教えてやる。我が一族の教えだ。」
それは、あれだよな？

「俺達に倒された奴が悪だ！」

第88話 覗きと濡れ衣と強化合宿2（後書き）

そういえば、エンドレスワルツの小説よんで気づきましたが、五飛とか、ゼクス達とか、トロワなどは話が矛盾してます。それはともかく、次回はトロワバートンについてです。感想でもアドバイスでも送ってくれるとありがたいです。

第89話バカと覗きと強化合宿（前書き）

今回はトロワバートンです。

緋色と同じでこの名はコードネームである。

本当のトロワはヘビーアームズの作成者の助手に殺される。詳しくはエンドレスワルツを見れば分かります。

本人は十歳から傭兵として働いていたが、ヘビーアームズの整備士になる。ちなみに心の中で会話をしている。

第89話 バカと覗きと強化合宿

トロワ side

五飛、それはあいつらに対する嫌がらせだ。

「さすが五飛だ。」

「俺達こそ正義。」

「つまり何をしてても間違っていない。」

やはりな。止めなくていいか。

「おい、五飛、そんなこと言ったら…」

たぶん、ズタボロになった後に補習だな。

「いくぞ、明久、ムツツリーニ。」

「おお！」×2

この後の結果は大体の人は予測つくだろう。

「さて、明久達の戦いぶりでも見に行きますか？」

面白そうだな。

「ああ。」×4

満場一致により移動。

廊下

雄二対布施先生？

「おまえ等助けてくれるのか？」

まさか…

「見に来ただけ」×5

「おい、嫌がらせか？」

そんな訳ない。

「俺達は明久を見てくる。」

緋色、デュオ、明久退場。

たぶん相手は鉄人だろう。

あ、雄二がやられた。

第89話 バカと覗きと強化合宿（後書き）

次回はカトルです。本名は長いので次回のみ使う予定です。
感想等くれたら嬉しいです。

第90話 バカと合同学習と強化合宿（前書き）

カトル・ラバーバ・ウィナーは唯一ミドルネームを持っているキャラです。普段は温厚で優しいのですが暴走すると数万人の人を躊躇無く葬ったりしました。そしてトロワですら記憶喪失にまで追い込まれた程です。

第90話 バカと合同学習と強化合宿

カトル side

今は強化合宿二日目の朝

いつもみたいに起きたら紅茶を飲みたいけど、ないからしかたない。

昨日は当然三人のボロ負け。当然といえば当然だけど。

合同学習が始まるかな、急がないと。

「…雄二、勉強も一緒に出来て嬉しい。」

も、という所は別におかしくは…

「坂本夫妻は、相変わらずアツいね。」

まさか…、明久がクラスメイトと一緒に上履きを構えてる。

「総員、上履きを持ってー！」

戦闘体勢だね、秀吉がいたら…

「何やってるのじゃ？明久。」

本当にいた、なんかあたるね兵士のかん。

「カトル君たち、一緒にいていいかな？」

愛子は少し遅れたみたいだ。「えっと工藤さん？」

疑問系なのはスルーして。

「そうだよ、アッキー、いや秋ちゃんとも呼ぼうかな？」

確かあれは明久の女装の時の名前だったっけ？

「すみません、工藤様、せめてアッキーでお願いします。」

黒歴史なんだからあれ。僕よりかは生優しいけど。

「僕、最近、これにはまってるんだよね。」

ボイスレコーダー？授業の録音？いや愛子の場合それはオマケだ。

「おい、明久、工藤が犯人か確かめてほしい。」

愛子がそんなことするわけ…

完全に否定できない。

第90話 バカと合同学習と強化合宿（後書き）

フローズンディアドロップ4巻買いました。内容はいいませんがよかったです。ちなみに26日にサンドロックのガンブラや敗者たちの栄光2巻と同時発売でした。

第90話バカと合同学習と強化合宿（前書き）

張五飛。この読み方はちようごひじゃなくてチャンウーフェイだそうです。

名前の由来は三国志の張飛からしく、彼も東洋人です。正義が愚かとしりつつも確固たる正義を持ち続けていた。しかし、バートンの乱では本当の正義を確かめる為に悪になった。蛇足ですが、五飛には妻がいて名前が竜妹蘭でした。しかしトルギスに乗って戦い、そして自爆に遭い死亡。それから五飛は自分の機体を那託と呼ぶようになった。

第90話 バカと合同学習と強化合宿

五飛 side

相変わらず、デユオ並のバカがたくさんいるな。

「おい、五飛、それが戦友に送る言葉か？」

お前確か昨晚こういったはずだよな？

「俺達は兵士じゃないと言わなかったか？兵士でもない奴に戦友はいない。」

兵士以外戦わないしな。

「はいはい、私がわろうございました。」

明久達が面白いことになってれば良いが…

関節が外れてる明久

石畳を置かれてるムツツリー二

目を押さえて苦しむ雄二

なかなか戦場じゃ見れないな。

「感心してないで助ける！」×3

相変わらず一般とずれてるな。俺達がいえないが。

「もう少し静かにしてくれないか？吉井君達。」

メガネ男子が来た。昔の俺をみてるみたいで腹がたつ。

「ごめん久保君。」

あいつ顔が赤いな、熱とかではないようだがとりあえず…

ヒューヒュー！

ドラゴンハングで頭を掴み叩きつける。すっきりするな。那詫と一体化してる気分にもなれるし。

「五飛、何やってるんだよ。」×2

二人相手か。

「いいだろう、正義は俺が決める！」

久々の肉弾戦だな。鈍ってないといいが。

「違うよ、五飛、聞きたいのは久保君に攻撃した理由。」

ああ、それは…

「無償に叩きつけたかったから。」
これで納得するはず

第90話 バカと合同学習と強化合宿（後書き）

感想やアドバイス、ご要望お待ちしております。

第91話 バカと合同学習と強化合宿2（前書き）

しばらく原作についての解説は休ませていただきます。理由は、5
人の説明をとりあえずしておいた方がいいと思ったただけなので。書
くこと無かったらまたしますが。

第91話 バカと合同学習と強化合宿2

緋色 side

五飛が久保？を叩きつけてる間に明久と工藤のやりとりでも見とくか。

「工藤さん、君が僕にお尻を見せてくれると腕がああああ」
変態だな、堂々と浮気とかお前はデユオか？

「緋色、いつ俺が浮気したんだよ？」

自分で言ってたじゃないか、氣が多いと。

「よしいくーん、気持ちは嬉しいけど無駄な相談かな？」

こいつもイカレてる。ろくな奴いないな。聖ガブリエルの方がマシかもな。

「吉井君、君のおかげで完成したよ。」

一体何が？

機械の再生音の後

「工藤さん、僕は君がほしい。」

明久の声の合成であった。

「次は右腕じゃな。」

さつきは左腕折ったのか、多少の情けはあるんだな。

「助けて緋色。」

大丈夫だ明久、もしもの時は、

「強制的に骨折を直してやる。」

他人にするのは痛くないからな。

「優子、俺とやらないか？」

工藤か。軽く、四肢の関節離した後に、脊髓離そうかな？

「緋色、そういうこと人前では言わないでよ！」

人前では？

「工藤、脊髓矧がされると、四肢の関節離されるのどちらがいいか答える。」

どっちも当然

「死ぬほど痛いかな。」

「愛子には手を出させない。」

カトルと戦うのは久々だな。

第91話 バカと合同学習と強化合宿2（後書き）

無茶苦茶にバトルシーン突入。果たして勝のはどちらか？
感想等を頂けると嬉しいです。

第92話 八力と戦闘と強化合宿（前書き）

いやー、文化祭だるいですね。うちの学校は文化祭と言いつつ、クラスでの出し物なんかなく合唱と学年毎の発表ぐらいしか無く、しかも、体育館に閉じこめられるという嫌な状態でした。小説とはずれてますのでここまでとします。

第92話 バカと戦闘と強化合宿

緋色 side

「はあ！」

得意のクロス斬りか、甘いな。

「モブキャラバリア！そしてモブキャラタックル。」

一人はカトルにクロス斬りを喰らい、もう一人は…

「いただく！」

ビームサーベルでカトルと一緒に貫く。

「ぐわあああああ！」×2

「さすが緋色、ウインドを倒しただけある。」

あれは肉弾戦じゃないがな。

「あいつはもうウインドじゃないだろ。」

キュレネの風、又はゼクスマーキスだな。

「ラシード、シェヘラザードを。」

あいついるのか？

「この土地ごと消すか、ゼロなら一つの島ぐらい軽く消せるだろう。」

「

実際そのくらいのものをしとめたしな。

「カトル君、やめてよ、確かに僕が悪かつ、痛い痛い、やめて緋色

君、きやああああ。」

女子の悲鳴とはこんなものか。

「緋色、何でしたのさ？」

それについては

「俺が一分あれば直せる、そして主はこういった、右関節を外されたら左関節を差し出せと。」

この国は仏教が多いから多分出さないだろうが。

「緋色、この国は仏教の国だよ。主じゃなくて仏はじゃないのかな？」

いや、まず、そういえば差し出すものじゃないだろ。

第93話 バカとのぞきと強化合宿

緋色 side

現在午後七時。

明久たちが覗きにいく一時間前。

「今日はどうする雄二、こっちも作戦を立てないと同じ目に遭うよ。」

「見て可愛そうだったしな。」

「手は打ってある。」

さすがといたいだが、たぶん無理だ。

「おい、坂本、なんだよ用事って？」

なぜなら最低クラスの男子達だから。

「おまえ等、女子の裸見たくないか？」

絶対乗るだろうこいつ等なら。

「詳しく聞かせろ！」×44

今日も観戦するかな。

「ちなみに俺達の頼みを聞いてほしい。」

何故？このタイミングで？

「尻に火傷がある女子を探してきてほしい。」×3

こいつらにそんなこと言ったら…

「お前等の性癖はイカレテやがる！」×44

思ったとおりだな。

「違う、それさえ見つけてくれたらいいんだ。」

「俺達に任せろ！」×44

明久達はどうするのだろうか？

「俺達は観戦しに行くか。」

自分は戦わないんだ。

「そうだね、行こうよ、緋色達も。」

答えは…

「行かせてもらう。」
「
どうなるだろうか、地味に結束力あるからな。」

第94話 バカとのぞきと強化合宿2

(前書き)

忙しくて一日一話がきつくなってきました。最低でも週一はしようと思います。

第94話 バカとのぞきと強化合宿2

緋色 side

勝敗も気になるが、あいつらの作戦とかどうなんだろうか？

「サーチ！ and！ デエエエス！」×44

頭が相当おかしいな、最低クラスといってもここまでは普通ないはずだ。

「五飛、教えてくれ、俺の常識はズレてるのか？」

「むろん、俺達が正しい。」

理由は俺達が正義だからだ！とでも言うだろう。

「倒した奴はどう扱っても構わん。触りたい奴はさわっとけ！」

須川、それはあんまりだ！

「おい、雄二、あれでいいのかよ？ 雄二？ おいどうしたんだよ？」

そっぴや明久達三人は他の場所で見えたな。おそらく巻き込まれたのだろう。

「ぐわあああああああ！」

前言撤回。処刑されてたようだ。気の毒に。

「緋色、逃げて！ そっちに秀吉のねえさ！」 明久、儂と話さないで誰と話してるのじゃ？」 ぐわあああああ！ 痛い痛い、緋色の骨折治療より痛い！」

優子が来てるのか。さてどうするものか？

「デュオ、結果を後で教えてくれ。急用が出来た。」

side out

雄二 side

ちっ！ 翔子にまったく気づかなかった。くそ、最悪補修にいかないように思ったがしかたない。

「お前等、理想郷まで共に駆け上がるぞ！」

「オオオオオオ！」×45

第95話 バカとのぞきと強化合宿3

緋色 side

優子はどうしようか？逃げるのも捕まえるのも出来る。感情に従っても迷ってしまう。こんな時にエピオンかゼロがいたら…だめか。あいつらは何も言わない。しかたない待つか。戦闘にはならないはずだしな。

「緋色、やっと見つけた。」

あんまり逃げてなかったが…

「何のようだ？」

「あんたが覗きに参加してなかったらどうしてるのかなって思っ

て」

俺達を除いて覗きに参加してるからな。

「お前は防衛に参加しなくていいのか？」

「あたし一人ぐらい大丈夫よ。ところで緋色は女性の体は興味ないの？」

「そんなこと考えたことがない。そしてそんな事考えたら、お前が関節外すだろ？」

戻すのはできるがだるい。

「たしかにそうなるわね。」

「そして反射的にお前の関節外すかもな。先に。」

「確かに一般人とは違うもんね。」

アディンとかに鍛えられたしな。

「優子、お前はどうするんだ？」

「緋色と一緒に寝るだけよ。」

why？何故なんだ！

「先生の許可はあるわ。心配しないで、吉井君達もよ。」

学園の長に対して脅迫したか…

「か、勘違いしないでよ！学園長室でビームサーベルなんて使って

ないんだからねっ！」

一般の女子高生が学園の長に脅迫。

第96話 バカとのぞきと強化合宿4

緋色 side

さて、ババアを消すか、明久を消すか。どうするかな。

「優子、俺は用事を済ませてくる。」

女子の方につけばいいか。

「どうせ、覗きを防ぎに行くんでしょ？あたしも行くわ。」

優子がいると予定より早く済むな。

「優子。とりあえず俺は全員を灰にするつもりだ。先生含め。」

「高橋先生に勝てるわけ……」

堂々と戦えば難しいが破壊工作員は効率よく任務をすいこつするかな。

「優子は男子を頼む。俺は女子の頭を潰す。」

「下手したら突破されるわよ。」

問題ない。

「まあ、行ってくるわ。」

優子さえ大丈夫ならいいからな。さて、姫路や霧島から潰すか。

side out

雄 side

チツ、木下姉まで来るとは。今回は……

ドン！ドン！ドカーン！

何だあのビーム何処から？翔子や姫路がやられてる。たぶん緋色だな。あとで……

「伝令！何処から狙撃され味方敵損害大です。」

あいつ男子も敵に回す気か？計算外だ。

「伝令！敵味方問わず大損害です。しかし敵の確認できません。」

デュオもか……なら、

「伝令！大量の弾丸が敵味方問わずやられてます。
ええい！トロワだな！
チツ！木下姉もいるのに。あと二人も動くだろ。」

第97話 バカと夜と強化合宿

緋色 side

デュオとトロワが動いてくれたのか！カトル、五飛もきてくれ。

「あいつら、敵だったのか？ということは木下姉もか。」

さすがは雄二か。だが甘い。

「坂本、吉井、土屋、貴様等は完全に包囲されている。おとなしく投降しろ。」

ゼクスを呼んどいたから。

「チッ、厄介な奴まで来やがったか。」

「安心しろ、私はテストしにきたのだ、こいつらの。」

確かにモビルドールだ。ビルゴ2とトールラス。

「おい、無人機は卑怯だろ。」

それは同意する。じゃあ、明久から。

ドーン！

「ギャアアアアア！かつてのバスターライフルの痛みがあああああああ！」

そういえばフィードバック付きだったな、すまない。

「明久！チッ、緋色、出てきやがれ！」

そうだな、出ようか。

「おらおらー、死神様の御通りだー！」

ザクッ！バタッ！

「ムツツリーニ！」

「…気配が感じられなかった。」

なんせデスサイズだからしかたない。

「チェックメイトだ、坂本。諦めろ。」

これにて終了だな。

だが、俺は大事なことを忘れていた。
部屋に優子がいた。

第98話 バカと夜と強化合宿2（前書き）

久々の前書きです。やっとテストが終わりました。更新スピードが上がるかもしれません。

第98話 バカと夜と強化合宿2

緋色 side

「おかえりなさい、緋色♪」

壊れてる！優子が壊れてる！

「明久ー！」

あいつ、ヒードバックだけじゃ足りないのか？

「すまない優子、ちよつと用が…」

「あたしは大事じゃないの？」

上目遣いだと、卑怯すぎる。これがデュオ曰く最終兵器の一つか？

「もちろん大事だ。」

もし、ゼロもこう言うだろう。

「もしもしゼクス？明久を受け取りに行きたいんだが？」

さあ、ツインバスターライフルのテストでもするか。

「優子、少し待っててくれ、変質者を消してくる。」

「あたしに任せて。」

そついや、関節技のプロだしな。

「ああ、よろしく頼む。」

さあ、処刑を見に行くか。

教育指導室

おしおき部屋？だろうか？まあいい。

「失礼します。」×2

やはり鉄人、ゼクス、あと一人はトレース？

「何故貴様が生きている！」

全員首を傾げてる。

「久しぶりだな、ヒロユイ。」

優子が会話についてきてない。

「ヒロ、その女子はどうしたんだい？まさか拉致したのか？これ以上失望させないでくれ。」

黙ってたら色々いくな。やっぱり。

第98話 バカとトレーズと教育指導

トレーズ side

まさかここに全員集まってたとは思わなかった。ヒロの少女拉致の件も。

「ところで何でいるんだ？」

ああ、ミリアルド以外には言ってなかったな。

「私は強化合宿の時に教師になったのだよ。」

「お前は二年間も何をしていた？娘が暴走してたのに。」

まあ、ニュースで見えていたが、

「君達がいるから大丈夫だと思ったのだよ。いろいろ見てきたな。例えば…須川、来てくれ。」

ゼロの予測では須川に明るい未来は無い。

side out

緋色 side

「こんな感じに。」

といって須川を殴る。おかしくはない。

ベチョッ！

違う、須川の肉が飛んだのでは無く、トレーズが須川を骨付きの生の鶏肉で殴った。

ある意味で痛いな。

「トレーズ、お前に何があった。」

「何もないよミリアルド。西村先生はお休みになってください。明日も奮闘されるでしょうか。」

まさか、精神の向上だろうか？完全平和への。

「トレーズ、レディアンまで来ないよな？」

あの人来たら、明久達不登校になるかもな。

「ここは、学力で戦うのだろう。私にふさわしい。緋色、明日、楽しみにしておくよ。」
ババアに召喚獣を強化してもらおう。

第98話 バカとトレースと教育指導（後書き）

鶏肉の元ネタは中村文昭さんの講演からいただきました。

第99話ババアと交渉と召喚獣（前書き）

もつじき100話連載したことになります。中途半端な所で一回区切らせていただきます。何か案がある場合はよろしくお願いします。

第99話 ババアと交渉と召喚獣

緋色 side

トレーズまで来たら、一筋縄じゃ行かないな。さて、明久にツインバスターライフルを試し撃ち出来なかったし、ババアに脅迫しに行くか。

「緋色、これからどうするの？」

仮にも優子は理解してくれているはずだ。

「優子と同じように、ババアの脅迫でもしようと思う。」

優子が焦ってるな。何故かというところは廊下。一般生徒達に聞こえるかもしれないからだろう。

「あ、あたしは、きよ脅迫なんかしてないわよ！」

焦りすぎだな優子は。戦争だったら軽く死んでただろうな。まあ、優子は死なせないがな。

「優子、来たいなら来ていいが、そうじゃないなら寝てろ。」

面倒事が起きて欲しくはないが…

「あたしも行く。」

やっぱりそうなるか。

「なら早めに済ませるか。」

「失礼します。」

ここは学校じゃないから待つ必要はないはずだ。

「地球を救った英雄とその彼女が一体何のようだい？」

英雄か。正しくは大量殺戮を行った兵士の償いなんだが。

「俺達の召喚獣の強化を頼む。トレーズやゼクスにも頼まれている。」

「

「その代わり条件があるさね。600点以上取れたときのみだがね。」

「

600か、無理じゃないな。」

「ありがとうございます。」

第100話 緋色と優子と合宿の夜（前書き）

次回から100話記念でも書こうと思います。もしかしたら続きが気になる方がいるかもしれませんがご了承ください。

第100話 緋色と優子と合宿の夜

緋色 side

あとは寝るだけなんだが、正直言っただけ寝なくてもやっていけるが、少しでも人間らしく生きようと誓ったからしかたない。

「優子、俺は先に寝ておく。明日に備えてな。」

昔ならこのような台詞を言う機会は全くなかったな。まあいい、寝るか。

side out

優子 side

どうしよう、緋色が寝ちゃった。あたしも寝ようかな？

でも、同じ部屋だからなにが起きてもいいわよね？

よし、決めた。緋色の言うとおり感情で行動しよう。

side out

緋色 side

何か音が聞こえる…まだ優子は起きていたのか？とりあえず起きて、状況の確認を…

優子が浴衣を脱いでる姿が見えた気がした。

「優子、おまえは何をしている？」

「え？緋色起きてたの？」

いやいや、先に寝ておくと言っただろう二時間前に。説明しておく
と現在二時半、寝た時間は12時半である。

「寝ていたが、音が聞こえて起きた。何をする気だったんだ？」

「あたし、前に言っただじゃない、子供が欲しいと…」

そうだったか？名前は聞いたが…

「それでね、折角の機会だから今夜、しようと思って…」

何を？と聞くまでもない、優子は子供が欲しいそうだ。確か高校生はまだ駄目だったはずだ。

第100話 緋色と優子と合宿の夜（後書き）

今回、縦が長くてすみません。中途半端な気もしますが次回から話を変えようと思います。もちろん終わったら、強化合宿に戻りますけどね。

第100話記念緋色と優子と座談会（前書き）

バカと堕天使と召喚獣、百話達成！お気に入り件数31！
イエーイ！ドンドンパフパフ！

一人で何盛り上がってるんだ？と思っていると思うので、スタート
！

第100話記念緋色と優子と座談会

連載百話記念座談会

「司会は今作主人公の緑川光と、」

「その妻、木下優子と、おまけに…」

「作者でお送りします。」

閃「緋色、自分の名前はちゃんと名乗れ。」

緋「緑川光じゃダメなのか？」

優「ダメに決まってるでしょ。あたしの夫なんだから。」

閃「このイチヤつきまくってる、二人は置いといて、いろんな方にインタビューしていこうと思います。というわけで…」

三人「最後まで、よろしくお願いしまーす。」

閃「まずは、原作の主人公、吉井明久の第一印象は？」

緋・優「天下一品のバカ」

閃「分かりやすい答えですね、では次…」

明「待てー！何故主役の僕とメインヒロインの秀吉が呼ばれてないのさ！」

いやー、それは

閃「主人公緋色で、ヒロイン優子だし。」

明「この二人の出会い酷すぎなくせにメインだと！」

緋「まあ、作者の文才の無さは同意するな。」

閃「酷いこと言うな、おまえは。デュオの言ってた事は本当だな。人の嫌がる言葉を選ぶセンスは

緋「で、次は誰だ？」

優「デュオ君達じゃないの？」

閃「残り少なくなったので、次回のお楽しみに。」

百話記念座談会2（前書き）

職場研修が木金あつて、あれこれ忙しく投稿できませんでした。

百話記念座談会 2

閃「それでは、坂本夫妻のごにゅーじょーです。」

雄「待て！勝手に入籍させるな！」

翔「夫婦…嬉しい♪作者はいい人。」

緋「なんか、恒例のネタだぞ、こいつらに関する感想は早く入籍しないと迷惑だ。」

優「あたしは、坂本君は外道鬼畜の大変態で、代表は坂本く…なんかめんどくさいわね。一途だなと思いました。」

雄「オレがいつたいなにをし…」

閃「あー、ちなみに、雄二は他にか…。悲しいが…さよならだ。」

翔「雄二、浮気したらキリストのようにkieeeする。」

雄「ふざけるな！覚えて矢がれ！」

閃「嘆いても遅い。」

三人「ありがとうございました。では、次の方。」

デ「おい、緋色ー、お前、またこんなことしてんのかよ？」

優「また？」

カ「緋色ってばボイスカセットを…」

デ・カ「ボイスカセットチュ！」

緋「ゼロの写す未来にお前等はいない、ここで…」

優「待ちなさい緋色。とりあえず用件を済ませましょ。」

緋「デュオはバカ、カトルは弱虫又は破壊の化身。」

ト「そういえば、五飛がいないな。ナタクについて聞きたかったが

…」

デ・カ「ガンダムを愛してた話？」

ト「違う、あいつの妻だ。」

緋「確か、トールギスに乗って体中骨がバキバキ折れた」

百話記念座談会3

？「何をしている！」

緋「なんだ、来てたのか、五飛。」

優「骨がバキバキって何があつたのよ？」

五「ナタクか？あいつは俺が14の時の妻だ。敵に特攻され、自爆に巻き込まれそうだった。」

デ「なんかわりいな。イヤな話させてよ。じゃあ、司会はウォーリアオブライイトと言われる俺の技術を…」

五・緋・ト「くだらん嘘はやめろ。」

閃「では二人について…」

緋「無口とバカだ。」

優「残念ながらあたしもよ。」

？「実に楽しそうではないか、我がともミリアルドよ。」

ミ「私はミリアルドではない、windだ、トレーズ。」

ト「久しぶりかな、諸君。」

W「トレーズ、お前に会つたのはこの内、私入れて四人だけだ。」

ト「ミリアルドよ、良いではないか、今は同じ建物で暮らすのだから。」

ミ「決着をつけるぞ、緋色！」

緋「未来は見えているはずだ！」

ガンガンバチバチバチ

緋「緋色とミリアルド先生何を？」

ミ・緋「ガンプラバトル！」

ト「五飛、第三回戦目を始めようではないか。」

五「いいだろう、俺に倒された奴が悪だ！」

優「とりあえず、無茶苦茶な座談会でしたが、読んでくださりありがとうございます。」

優・閃「次回？もお楽しみに。」

百話記念座談会3（後書き）

なんか無茶苦茶でしたが、とりあえず座談会は終了。次回からオリ話です。感想や願望、アドバイス等あったらお願いします。

101 話夜の危険

緋色 side

「緋色、だから、よろしくね。」

「断る。」

「ちよつ、待つて。」

待てといった待つのはカトルとバカぐらいか？

ところで、もし、気づかなかつたら俺は…

危ないからやめるか。

「緋色じゃないか。やっぱり持つべきはともだ！」×3

あいつらもまさか…そんなわけな…

「童貞を捨てられそうなんだ！」×3

まったく同じ境遇の奴がいるとは思わなかったな。

「分かった。生憎俺も同じだ。」

「貴様等！こんな時間に何をヤツトルカアアア！」

途中から魂が叫んでるような気がする。こいつら、女子でも襲った

のか？

「…そんな訳ない！…」

それはそれは、大変ですね。ツインバスターライフルで何処までや

れるか、試すか。

「緋色、無茶だよ！」

確かに危ないが…

「俺は死なない！」

無理だったら、近接戦しかないが。

「緋色、鉄人は●フィールドがあるんだよ！」

くそ！逃げるか。

「また会えることを祈ってる。」

とりあえず、トレーズかゼクスの所へ。

102 話夜の出来事（前書き）

しばらく投稿せずすみません。個人的な都合等あったもので…
とりあえず本編に。

102 話夜の出来事

緋色 side

人間が熱を跳ね返すのはさすがに酷くないか？鉄が軽く溶ける程度だとしても弾かれるのはおかしすぎる。

「待てええええええ！」

ああ、デュオに連絡よこしておけば良かったな。
バン！

誰だ！こんな時間に彷徨してるのは？

side out

翔子 side

「緋色？」

「大丈夫か？立てないなら助けるが…」

なんか、体が熱くなってる。あの時と同じだ。雄二が私を救ってくれた時と。でも何故？

「どうした？顔が赤いが、熱でもあるのか？」

熱？違う。これは熱なんかじゃない。

「とりあえず、送ってやる。」

「…ありがとう。」

何故かとても嬉しい。雄二と一緒に過ごすときよりも…

「いったいどうした？さつきから、下向いているが、何かあったか？」

その答えは分からない。

「緋色はいつたいなにを？」

優子と一緒に散歩でもしてると思ったけど。

「優子から逃げてたら冥碑…じゃなくなて明久とムツツリー二と雄二に会ったあとに、鉄人に遭遇し、また逃げただけだ。」
だけじゃない気が。

103 話夜の不幸

翔子 side

「緋色、今夜は私と一緒に居てくれない？」

「俺は構わないが、優子を落ち着かせるのを手伝ってくれないか？」
「そういえば、逃げてきたって、いった。」

「ミリアルド、なかなか面白いものが見えるのだが。」

「まったくだ、愛の逃避行など。私など、家族と別れてまで逃げたというのに。」

確か、先生なのかな？らしくない雰囲気だけど。

「おい、ゼクス、連合に対する愚痴を俺達に向けるな。後、そういうことをした覚えがない。」

まあ、疑われるのはしかたないかもしれない。

「緋色、これ以上私に失望させないでくれ。」

ビュン！

キン！

「トレーズ、剣など持ち込むな…ターゲットロック、破壊する。」

緋色が銃のような物を構える。

「緋色、やめろ。霧島も巻き込むことになるぞ。」

この人達は一体何を？

「トレーズ、彼女は霧島財閥の一人娘だぞ。」

何故、先生が、担任でもないのに、個人情報を？

「ゼクス、暇だからってハッキングは駄目だろうが。学年主任に聞けば済んだのだろう。」

先生ってハッキングできるんだ。

「所で、西村先生は人なのか？熱を弾くとか。帝のフレアみたいな扱いじゃないか、もしかしてガ。ラスなのかあいつは？」
分からない。

104 話夜に女子と逃走（前書き）

実は、p s pで更新していたのですが、ぶっ壊れてネットが出来る状況じゃなかったです。ちなみに弟の奴を借りてます。

104 話夜に女子と逃走

翔子 side

「とりあえず、君達は此処にいていいのかな？西村先生が来たら終わりじゃないか？」

「問題ない、妖怪ばあを脅迫していた。」

問題ありすぎるこの人達は。

「トレーズ、二人の浮気を邪魔するな、今度は馬に蹴られて地獄に行くかもしれん。」

本当にこの二人何者？

「それでは、また会おう。」

あの金髪の人、ゼクス？不思議な名前だけど、知り合いかな？何処かで見た気がする。

「帰ったぞ優子。」

「やっと帰ってきた？」

そうか、そういえば普通私は此処にいない。

「代表？何で？」

死んだ人みたいな扱いはやめて欲しい。

「変人に襲われかけてたから助けただけだ。」

知り合いを変人扱い？

「デュオとか、異端審問会がいたのに忘れたのか？すまないな、霧島。」

何故か名字で呼ばれると少し悲しくなる。彼限定だけど。

「とりあえず、優子、いいだろ？」

「私はいいけど、寝なくていいの？」

ずっと起きてるみたいだった。

「わかった、しっかり30分寝てくる。」

パシイン！

「痛いな、優子。俺はなにもしないぞ。」

第105話女と夜と大事な話（前書き）

p s pの調子が相変わらずです。弟のを借りてなるべく更新しよう
と思います。

第105話女と夜と大事な話

優子 side

「代表、坂本君はいいの？」

まさかつてことはないよね？」

「今日は緋色といたい気分だからいい。」

緋色は一体なにをしたのかしら？」

「まさか、代表は緋色のことを…？」

「分らない。」

はい？分らないって何？代表にしては珍しい。

「だけど、緋色といると何故か嬉しいし、楽しい。」

顔を赤らめてる。まさか、代表が墜ちた？

「それは、良かった。」

あれ！二人以外の声がする？

「そんなこと言っているのか？」

やっぱり気づかないのか！。相変わらずだ。

「って緋色！あんた寝てたんじゃ？」

「特殊作業員には神出鬼没の訓練が施されている。」

あんた育てたア…何だっけ？まあいいや、何してたんだろ？

「緋色、できれば名前で呼んでくれない？」

あちゃー。これは確定だね。

「分かった翔子。にしても何をするんだ？」

早いわね、さすがだわ。

「抱きしめ…」

「代表、あたしの彼氏なんだけど？」

下手したら盗られるかもしれない。

「最近、らしいことしてない。」

さすが主席、痛いところをついてくる。

「緋色、あんなことまでし…」

「俺は無実だ！」

「何やっとするか！」

鉄人、嫌がらせか？

第106話鉄人と夜と大事な話

緋色 side

「今何時だと思つとるかああああ!」

深夜? 違う、五時かな?

「先生、そこは、ババアから許可があるから気にするな。」

「にしても緋色、あのババアをどうやって説得した?」

教師が上司に向かつてババアとはな。ちよつと暇を潰すか。

「西村先生、あんたはあのババアをどう思つてるんだ?」

「何言つてるんだ緋色。妖怪ババアは妖怪ババアだろ?」

これが仕事とプライベートの違いか? おもしろい。

「こちら、レッドワン。ウインド通信願う。」

「こちら、プリペンターウインド、これより資源…違ったな、通信

頼む。」

あいつ、この名で通信したことないだろ。

「。。。へ来てくれ、おもしろいから。」

「おもしろい?」×3

「こちらウインド失礼する。西村先生、何故此处に?」

驚かない人、滅多にいないだろう。

「ゼクス先生、ウインドとは?」

「昔のコードネームですよ、緋色と同じ。」

余計なことまで言うか。

「先生方、ババアについて。」

さて、どうなるか、楽しみだ。

「あれは人じゃない、妖怪だな。」

ガチャ

誰だ?

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4729v/>

バカと堕天使と召喚獣

2012年1月13日23時02分発行